

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由								
<p>第 1 編共通編 1-1-1-30 環境対策 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-1-1</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">機 種</th> <th style="width: 50%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 一般工事中建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事中用機械のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン </td> <td> ディーゼルエンジン(エンジン出力 7.5kW 以上 260kW 以下) を搭載した建設機械に限る。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>・オフロード法の基準適合表示が付されているもの又は特定特殊自動車確認証の交付を受けているもの</p> <p>・排出ガス対策型建設機械として指定を受けたもの</p>	機 種	備 考	一般工事中建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事中用機械のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力 7.5kW 以上 260kW 以下) を搭載した建設機械に限る。	<p style="text-align: center;">表 1-1-1</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">機 種</th> <th style="width: 50%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 一般工事中建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事中用機械のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン </td> <td> ディーゼルエンジン(エンジン出力 7.5kW 以上 260kW 以下) を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>・オフロード法の基準適合表示が付されているもの又は特定特殊自動車確認証の交付を受けているもの</p> <p>・排出ガス対策型建設機械として指定を受けたもの</p>	機 種	備 考	一般工事中建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事中用機械のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力 7.5kW 以上 260kW 以下) を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。	
機 種	備 考									
一般工事中建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事中用機械のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力 7.5kW 以上 260kW 以下) を搭載した建設機械に限る。									
機 種	備 考									
一般工事中建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事中用機械のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力 7.5kW 以上 260kW 以下) を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由						
<p>第 1 編共通編 1-1-1-30 環境対策 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-1-2</p> <table border="1" data-bbox="225 415 1317 915"> <thead> <tr> <th data-bbox="225 415 825 462">機 種</th> <th data-bbox="825 415 1317 462">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="225 462 825 823"> トンネル工事用建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル ・大型ブレーカ ・コンクリート吹付機 ・ドリルジャンボ ・ダンプトラック ・トラックミキサ </td> <td data-bbox="825 462 1317 823"> ディーゼルエンジン（エンジン出力 30kW 以上 260kW 以下）を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている大型特殊自動車及び小型特殊自動車以外の自動車の種別で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="225 823 1317 915"> ・オフロード法の 2011 年基準適合表示又は 2011 年基準同等適合表示が付されているもの ・トンネル工事用排出ガス対策建設機械として指定を受けたもの </td> </tr> </tbody> </table>	機 種	備 考	トンネル工事用建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル ・大型ブレーカ ・コンクリート吹付機 ・ドリルジャンボ ・ダンプトラック ・トラックミキサ	ディーゼルエンジン（エンジン出力 30kW 以上 260kW 以下）を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている大型特殊自動車及び小型特殊自動車以外の自動車の種別で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。	・オフロード法の 2011 年基準適合表示又は 2011 年基準同等適合表示が付されているもの ・トンネル工事用排出ガス対策建設機械として指定を受けたもの		<p>変更なし</p>	
機 種	備 考							
トンネル工事用建設機械 ・バックホウ ・トラクタショベル ・大型ブレーカ ・コンクリート吹付機 ・ドリルジャンボ ・ダンプトラック ・トラックミキサ	ディーゼルエンジン（エンジン出力 30kW 以上 260kW 以下）を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている大型特殊自動車及び小型特殊自動車以外の自動車の種別で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。							
・オフロード法の 2011 年基準適合表示又は 2011 年基準同等適合表示が付されているもの ・トンネル工事用排出ガス対策建設機械として指定を受けたもの								

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																		
<p>第 1 編共通編 1-1-1-32 交通安全管理 第 12 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-1-3 一般的制限値</p> <table border="1" data-bbox="311 415 1288 1024"> <thead> <tr> <th>車両の諸元</th> <th>一 般 的 制 限 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幅</td> <td>2.5m</td> </tr> <tr> <td>長さ</td> <td>12.0m</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>3.8m（ただし、指定道路については 4.1m）</td> </tr> <tr> <td>重量 総 重 量</td> <td>20.0 t（ただし、高速自動車国道・指定道路については、軸距・長さに応じ最大 25.0 t）</td> </tr> <tr> <td>軸重</td> <td>10.0 t</td> </tr> <tr> <td>隣接軸重 の合計</td> <td>隣り合う車軸に係る軸距 1.8m未満の場合は 18 t (隣り合う車軸に係る軸距が 1.3m以上で、かつ、当該隣り合う車軸に係る軸重が 9.5 t 以下の場合は 19 t)、 1.8m以上の場合は 20 t</td> </tr> <tr> <td>輪荷重</td> <td>5.0 t</td> </tr> <tr> <td>最小回転半径</td> <td>12.0m</td> </tr> </tbody> </table>	車両の諸元	一 般 的 制 限 値	幅	2.5m	長さ	12.0m	高さ	3.8m（ただし、指定道路については 4.1m）	重量 総 重 量	20.0 t（ただし、高速自動車国道・指定道路については、軸距・長さに応じ最大 25.0 t）	軸重	10.0 t	隣接軸重 の合計	隣り合う車軸に係る軸距 1.8m未満の場合は 18 t (隣り合う車軸に係る軸距が 1.3m以上で、かつ、当該隣り合う車軸に係る軸重が 9.5 t 以下の場合は 19 t)、 1.8m以上の場合は 20 t	輪荷重	5.0 t	最小回転半径	12.0m	<p>変更なし</p>	
車両の諸元	一 般 的 制 限 値																			
幅	2.5m																			
長さ	12.0m																			
高さ	3.8m（ただし、指定道路については 4.1m）																			
重量 総 重 量	20.0 t（ただし、高速自動車国道・指定道路については、軸距・長さに応じ最大 25.0 t）																			
軸重	10.0 t																			
隣接軸重 の合計	隣り合う車軸に係る軸距 1.8m未満の場合は 18 t (隣り合う車軸に係る軸距が 1.3m以上で、かつ、当該隣り合う車軸に係る軸重が 9.5 t 以下の場合は 19 t)、 1.8m以上の場合は 20 t																			
輪荷重	5.0 t																			
最小回転半径	12.0m																			

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表		理 由
第 1 編共通編 1-2-3-1 一般事項 第 2 項							
表 1-2-1 土及び岩の分類表							
名	称		説 明		摘 要		
	A	B	C				
土	礫質土	礫まじり土		礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの。	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫(G) 礫質土(GF)	
		砂質土及び砂	砂		バケツ等により山盛り形状になりにくいもの。	海岸砂丘の砂 マサ土	
	砂質土(普通土)		掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの。	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム	砂(S) 砂質土(SF) シルト(M)		
	粘性土		バケツ等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの。	ローム 粘性土	シルト(M) 粘性土(C)		
	高含水比粘性土		バケツなどに付着し易く特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土	シルト(M) 粘性土(C) 火山灰質粘性土(V) 有機質土(O)		
岩または石	岩塊 玉石		岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空げきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径 7.5 cm 以上とし、まるみのあるのを玉石とする。		玉石まじり土岩塊 起砕された岩、ごろごろした河床		変更なし
	軟岩	軟岩		I 第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。 風化がはなはだしくきわめてもろいもの。 指先で離しうる程度のものでき裂の間隔は 1～5 cm くらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。 風化が相当進み多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は 5～10 cm 程度のもの。	地山弾性波速度 700～2800m/sec		
		II 凝灰質で堅く固結しているもの。 風化が目によって相当進んでいるもの。 き裂間隔が 10～0 cm 程度で軽い打撃により離しうる程度、異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離しうるもの。					
	硬岩	中硬岩		石灰岩、多孔質安山岩のように、特にち密でなくても相当の固さを有するもの。 風化の程度があまり進んでいないもの。 硬い岩石で間隔 30～50 cm 程度のき裂を有するもの。		地山弾性波速度 2000～4000m/sec	
硬岩		I 花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。 き裂間隔が 1 m 内外で相当密着しているもの。 硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度 3000m/sec 以上				
II けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。 風化していない新鮮な状態のもの。 き裂が少なく、よく密着しているもの。							

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由															
<p>第 1 編共通編 1-2-3-1 一般事項 第 10 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-2-2 伐開除根作業</p> <table border="1" data-bbox="311 369 1234 600"> <thead> <tr> <th data-bbox="311 369 555 449">区 分</th> <th colspan="4" data-bbox="555 369 1234 449">種 別</th> </tr> <tr> <td data-bbox="311 449 555 522"></td> <td data-bbox="555 449 783 522">雑草・ささ類</td> <td data-bbox="783 449 923 522">倒木</td> <td data-bbox="923 449 1098 522">古 根 株</td> <td data-bbox="1098 449 1234 522">立木</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="311 522 555 600">盛土箇所全部</td> <td data-bbox="555 522 783 600">根からすきとる</td> <td data-bbox="783 522 923 600">除去</td> <td data-bbox="923 522 1098 600">抜根除去</td> <td data-bbox="1098 522 1234 600">同左</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	種 別					雑草・ささ類	倒木	古 根 株	立木	盛土箇所全部	根からすきとる	除去	抜根除去	同左	<p>変更なし</p>	
区 分	種 別																
	雑草・ささ類	倒木	古 根 株	立木													
盛土箇所全部	根からすきとる	除去	抜根除去	同左													

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																			
<p>第 1 編共通編 1-2-4-1 一般事項 第 13 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-2-3 伐開除根作業</p> <table border="1" data-bbox="320 369 1219 646"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">種 別</th> </tr> <tr> <th>雑草・ささ類</th> <th>倒木</th> <th>古 根 株</th> <th>立木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛土高 1 m を越える場合</td> <td>地面で刈り取る</td> <td>除去</td> <td>根元で切り取る</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>盛土高 1 m 以下の場合</td> <td>根からすき取る</td> <td>〃</td> <td>抜根除去</td> <td>〃</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	種 別				雑草・ささ類	倒木	古 根 株	立木	盛土高 1 m を越える場合	地面で刈り取る	除去	根元で切り取る	同左	盛土高 1 m 以下の場合	根からすき取る	〃	抜根除去	〃	<p>変更なし</p>	
区 分		種 別																			
	雑草・ささ類	倒木	古 根 株	立木																	
盛土高 1 m を越える場合	地面で刈り取る	除去	根元で切り取る	同左																	
盛土高 1 m 以下の場合	根からすき取る	〃	抜根除去	〃																	

現行（平成 25 年度）表						新（平成 27 年度）表						理 由
第 1 編共通編 1-3-3-3 配合 第 3 項												
表 1-3-1 示方配合表												
粗骨材の 最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメン ト比 W/C(%)	空気量 (%)	細骨材率 S / a (%)	単 位 量 (kg/m ³)							
					水	セメント	混和材	細骨材	粗骨材	混和剤		
					W	C	F	S	G	A		
						変更なし						

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 1 編共通編 1-3-5-4 材料の計量及び練混ぜ 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-3-2 計量の許容誤差</p> <table border="1" data-bbox="507 373 1041 646"> <thead> <tr> <th>材料の種類</th> <th>最大値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>セメント</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>骨材</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>混和材</td> <td>2※</td> </tr> <tr> <td>混和剤</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※高炉スラグ微粉末の場合は、1（%）以内</p>	材料の種類	最大値 (%)	水	1	セメント	1	骨材	3	混和材	2※	混和剤	3	<p>変更なし</p>	
材料の種類	最大値 (%)													
水	1													
セメント	1													
骨材	3													
混和材	2※													
混和剤	3													

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																
<p>第 1 編共通編 1-3-6-9 養生 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-3-3 コンクリートの標準養生期間</p> <table border="1" data-bbox="225 373 1299 558"> <thead> <tr> <th>日平均気温</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントB種</th> <th>早強ポルトランドセメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15℃以上</td> <td>5日</td> <td>7日</td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>10℃以上</td> <td>7日</td> <td>9日</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>9日</td> <td>12日</td> <td>5日</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔注〕寒中コンクリートの場合は、第 1 編第 3 章第 10 節寒中コンクリートの規定による。養生期間とは、湿潤状態を保つ期間のことである。</p>	日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント	15℃以上	5日	7日	3日	10℃以上	7日	9日	4日	5℃以上	9日	12日	5日	<p>変更なし</p>	
日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント															
15℃以上	5日	7日	3日															
10℃以上	7日	9日	4日															
5℃以上	9日	12日	5日															

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																					
<p>第 1 編共通編 1-3-10-3 養生 第 5 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-3-4 寒中コンクリートの養生期間</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">断面</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">養生温度</th> <th colspan="3" style="width: 70%;">普通の場合</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">セメントの種類 普通ポルトランド</th> <th style="width: 20%;">早強ポルトランド 普通ポルトランド + 促進剤</th> <th style="width: 20%;">混 合 セメント B 種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">構造物の露出状態</td> <td rowspan="2">(1) 連続してあるいはしばしば水で飽和される部分</td> <td>5℃</td> <td>9 日</td> <td>5 日</td> <td>12 日</td> </tr> <tr> <td>10℃</td> <td>7 日</td> <td>4 日</td> <td>9 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 普通の露出状態にあり(1)に属さない部分</td> <td>5℃</td> <td>4 日</td> <td>3 日</td> <td>5 日</td> </tr> <tr> <td>10℃</td> <td>3 日</td> <td>2 日</td> <td>4 日</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：W/C=55%の場合を示した。W/Cがこれと異なる場合は増減する。</p>	断面	養生温度	普通の場合			セメントの種類 普通ポルトランド	早強ポルトランド 普通ポルトランド + 促進剤	混 合 セメント B 種	構造物の露出状態	(1) 連続してあるいはしばしば水で飽和される部分	5℃	9 日	5 日	12 日	10℃	7 日	4 日	9 日	(2) 普通の露出状態にあり(1)に属さない部分	5℃	4 日	3 日	5 日	10℃	3 日	2 日	4 日	<p>第 1 編共通編 1-3-10-3 養生 第 5 項</p> <p style="text-align: center;">表 1-3-4 寒中コンクリートの養生期間</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">型枠の取外し直後に構造物が曝される環境</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">養生温度</th> <th colspan="3" style="width: 70%;">セメントの種類</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">普通ポルトランドセメント</th> <th style="width: 20%;">早強ポルトランドセメント</th> <th style="width: 20%;">混 合 セメント B 種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(1) コンクリート表面が水で飽和される頻度が高い場合</td> <td>5℃</td> <td>9 日</td> <td>5 日</td> <td>12 日</td> </tr> <tr> <td>10℃</td> <td>7 日</td> <td>4 日</td> <td>9 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) コンクリート表面が水で飽和される頻度が低い場合</td> <td>5℃</td> <td>4 日</td> <td>3 日</td> <td>5 日</td> </tr> <tr> <td>10℃</td> <td>3 日</td> <td>2 日</td> <td>4 日</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：水セメント比が 55%の場合の標準的な養生期間を示した。水セメント比がこれと異なる場合は適宜増減する。</p>	型枠の取外し直後に構造物が曝される環境	養生温度	セメントの種類			普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	混 合 セメント B 種	(1) コンクリート表面が水で飽和される頻度が高い場合	5℃	9 日	5 日	12 日	10℃	7 日	4 日	9 日	(2) コンクリート表面が水で飽和される頻度が低い場合	5℃	4 日	3 日	5 日	10℃	3 日	2 日	4 日	<p>「コンクリート標準示方書 施工編（2012 年版）」の内容修正による改定</p>
断面			養生温度	普通の場合																																																			
	セメントの種類 普通ポルトランド	早強ポルトランド 普通ポルトランド + 促進剤		混 合 セメント B 種																																																			
構造物の露出状態	(1) 連続してあるいはしばしば水で飽和される部分	5℃	9 日	5 日	12 日																																																		
		10℃	7 日	4 日	9 日																																																		
	(2) 普通の露出状態にあり(1)に属さない部分	5℃	4 日	3 日	5 日																																																		
		10℃	3 日	2 日	4 日																																																		
型枠の取外し直後に構造物が曝される環境	養生温度	セメントの種類																																																					
		普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	混 合 セメント B 種																																																			
(1) コンクリート表面が水で飽和される頻度が高い場合	5℃	9 日	5 日	12 日																																																			
	10℃	7 日	4 日	9 日																																																			
(2) コンクリート表面が水で飽和される頻度が低い場合	5℃	4 日	3 日	5 日																																																			
	10℃	3 日	2 日	4 日																																																			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由														
<p>第 1 編共通編 1-3-13-3 コンクリートの製造 第 3 項</p> <p>表 1-3-5 計量の許容誤差（水中不分離性コンクリート）</p> <table border="1" data-bbox="507 373 1041 695"> <thead> <tr> <th>材料の種類</th> <th>最大値（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>セメント</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>骨材</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>混和材</td> <td>2※</td> </tr> <tr> <td>水中不分離性混和剤</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>混和剤</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※高炉スラグ微粉末の場合は、1（%）以内</p>	材料の種類	最大値（%）	水	1	セメント	1	骨材	3	混和材	2※	水中不分離性混和剤	3	混和剤	3	<p style="text-align: center;">変更なし</p>	
材料の種類	最大値（%）															
水	1															
セメント	1															
骨材	3															
混和材	2※															
水中不分離性混和剤	3															
混和剤	3															

現行（平成 25 年度）表			新（平成 27 年度）表	理 由
第 2 編材料編 2-1-2 工事材料の品質 第 6 項.				
表 2-1-1 「海外建設資材品質審査・証明」対象資材				
	区分／細別	品目	対応 JIS 規格 (参考)	
I	セメント	ポルトランドセメント	JIS R 5210	
		高炉セメント	JIS R 5211	
		シリカセメント	JIS R 5212	
		フライアッシュセメント	JIS R 5213	
II	1 構造用圧延鋼材	一般構造用圧延鋼材	JIS G 3101	変更なし
		溶接構造用圧延鋼材	JIS G 3106	
		鉄筋コンクリート用棒鋼	JIS G 3112	
		溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	JIS G 3114	
	2 軽量形鋼	一般構造用軽量形鋼	JIS G 3350	
	3 鋼管	一般構造用炭素鋼鋼管	JIS G 3444	
		配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	
		配管用アーク溶接炭素鋼鋼管	JIS G 3457	
		一般構造用角形鋼管	JIS G 3466	
	4 鉄線	鉄線	JIS G 3532	
	5 ワイヤロープ	ワイヤロープ	JIS G 3525	
	6 プレストレスト コンクリート 用鋼材	PC 鋼線及び PC 鋼より線	JIS G 3536	
		PC 鋼棒	JIS G 3109	
		ピアノ線材	JIS G 3502	
		硬鋼線材	JIS G 3506	
	7 鉄鋼	鉄線	JIS G 3532	
		溶接金網	JIS G 3551	
		ひし形金網	JIS G 3552	
	8 鋼製ぐい 及び鋼矢板	鋼管ぐい	JIS A 5525	
		H型鋼ぐい	JIS A 5526	
		熱間圧延鋼矢板	JIS A 5528	
		鋼管矢板	JIS A 5530	
	9 鋼製支保工	一般構造用圧延鋼材	JIS G 3101	
		六角ボルト	JIS B 1180	
		六角ナット	JIS B 1181	
		摩擦接合用高力六角ボルト、 六角ナット、平座金のセット	JIS B 1186	

Ⅲ 瀝青材料	舗装用石油アスファルト	日本道路 規定規格		
	石油アスファルト乳剤	JIS K 2208		
Ⅳ 割ぐり石及び骨材	割ぐり石	JIS A 5006		
	道路用砕石	JIS A 5001		
	アスファルト舗装用骨材	JIS A 5001		
	フィラー（舗装用石炭石粉）	JIS A 5008		
	コンクリート用砕石及び砕砂	JIS A 5005		
	コンクリート用スラグ骨材	JIS A 5011		
	道路用鉄鋼スラグ	JIS A 5015		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																												
<p>第 2 編材料編 2-2-3-2 セメントコンクリート用骨材 第 1 項</p> <p>表 2-2-1 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート、プレパックドコンクリートの細骨材の粒度の範囲</p> <p>(1) 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート</p> <table border="1" data-bbox="311 464 1234 890"> <thead> <tr> <th>ふるいの呼び寸法(mm)</th> <th>ふるいを通るものの重量百分率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>100</td></tr> <tr><td>5</td><td>90～100</td></tr> <tr><td>2.5</td><td>80～100</td></tr> <tr><td>1.2</td><td>50～90</td></tr> <tr><td>0.6</td><td>25～65</td></tr> <tr><td>0.3</td><td>10～35</td></tr> <tr><td>0.15</td><td>2～10 [注 1]</td></tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 砕砂あるいはスラグ細骨材を単独に用いる場合には、2～15%にしてよい。混合使用する場合で、0.15mm 通過分の大半が砕砂あるいはスラグ細骨材である場合には 15%としてよい。</p> <p>[注 2] 連続した 2 つのふるいの間の量は 45%を超えないのが望ましい。</p> <p>[注 3] 空気量が 3%以上で単位セメント量が 250kg/m³以上のコンクリートの場合、良質の鉱物質微粉末を用いて細粒の不足分を補う場合等に 0.3mm ふるいおよび 0.15mm ふるいを通るものの質量百分率の最小値をそれぞれ 5 および 0 に減らしてよい。</p> <p>(2) プレパックドコンクリート</p> <table border="1" data-bbox="376 1339 1169 1619"> <thead> <tr> <th>ふるいの呼び寸法 (mm)</th> <th>ふるいを通るものの重量百分率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2.5</td><td>100</td></tr> <tr><td>1.2</td><td>90～100</td></tr> <tr><td>0.6</td><td>60～80</td></tr> <tr><td>0.3</td><td>20～50</td></tr> <tr><td>0.15</td><td>5～30</td></tr> </tbody> </table>	ふるいの呼び寸法(mm)	ふるいを通るものの重量百分率(%)	10	100	5	90～100	2.5	80～100	1.2	50～90	0.6	25～65	0.3	10～35	0.15	2～10 [注 1]	ふるいの呼び寸法 (mm)	ふるいを通るものの重量百分率(%)	2.5	100	1.2	90～100	0.6	60～80	0.3	20～50	0.15	5～30	<p>変更なし</p>	
ふるいの呼び寸法(mm)	ふるいを通るものの重量百分率(%)																													
10	100																													
5	90～100																													
2.5	80～100																													
1.2	50～90																													
0.6	25～65																													
0.3	10～35																													
0.15	2～10 [注 1]																													
ふるいの呼び寸法 (mm)	ふるいを通るものの重量百分率(%)																													
2.5	100																													
1.2	90～100																													
0.6	60～80																													
0.3	20～50																													
0.15	5～30																													

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																					
<p>第 2 編材料編 2-2-3-2 セメントコンクリート用骨材 第 1 項</p> <p>表 2-2-2 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート、プレパックドコンクリートの粗骨材の粒度の範囲</p> <p>(1) 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート</p> <table border="1" data-bbox="320 459 1219 861"> <thead> <tr> <th rowspan="2">粗骨材の 最大寸法(mm)</th> <th colspan="10">ふるいの呼び 寸法(mm)</th> </tr> <tr> <th>50</th> <th>40</th> <th>25</th> <th>20</th> <th>15</th> <th>13</th> <th>10</th> <th>5</th> <th>2.5</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40</td> <td>100</td> <td>95~ 100</td> <td>—</td> <td>35~ 70</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>10~ 30</td> <td>0~ 5</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>—</td> <td>100</td> <td>95~ 100</td> <td>—</td> <td>30~ 70</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0~ 10</td> <td>0~ 5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>100</td> <td>90~ 100</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>20~ 55</td> <td>0~ 10</td> <td>0~ 5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>100</td> <td>90~ 100</td> <td>0~ 15</td> <td>0~ 5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) プレパックドコンクリート</p> <table border="1" data-bbox="320 951 1219 1089"> <tbody> <tr> <td>最小寸法</td> <td>15mm 以上。</td> </tr> <tr> <td>最大寸法</td> <td>部材最小寸法の 1/4 以下かつ鉄筋コンクリートの場合は、鉄筋のあきの 1/2 以下。</td> </tr> </tbody> </table>	粗骨材の 最大寸法(mm)	ふるいの呼び 寸法(mm)										50	40	25	20	15	13	10	5	2.5		40	100	95~ 100	—	35~ 70	—	—	10~ 30	0~ 5	—		25	—	100	95~ 100	—	30~ 70	—	—	0~ 10	0~ 5		20	—	—	100	90~ 100	—	—	20~ 55	0~ 10	0~ 5		10	—	—	—	—	—	100	90~ 100	0~ 15	0~ 5		最小寸法	15mm 以上。	最大寸法	部材最小寸法の 1/4 以下かつ鉄筋コンクリートの場合は、鉄筋のあきの 1/2 以下。	<p style="text-align: center;">変更なし</p>	
粗骨材の 最大寸法(mm)		ふるいの呼び 寸法(mm)																																																																					
	50	40	25	20	15	13	10	5	2.5																																																														
40	100	95~ 100	—	35~ 70	—	—	10~ 30	0~ 5	—																																																														
25	—	100	95~ 100	—	30~ 70	—	—	0~ 10	0~ 5																																																														
20	—	—	100	90~ 100	—	—	20~ 55	0~ 10	0~ 5																																																														
10	—	—	—	—	—	100	90~ 100	0~ 15	0~ 5																																																														
最小寸法	15mm 以上。																																																																						
最大寸法	部材最小寸法の 1/4 以下かつ鉄筋コンクリートの場合は、鉄筋のあきの 1/2 以下。																																																																						

現行（平成 25 年度）表														新（平成 27 年度）表				理 由																																																																																																																																																																																																																																																																						
<p>第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 1 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-3 砕石の粒度</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 5%;">呼び名</th> <th rowspan="2" style="width: 5%;">ふるい目の開き 粒度範囲 (mm)</th> <th colspan="15" style="text-align: center;">ふるいを通るものの質量分率 (%)</th> </tr> <tr> <th>106mm</th> <th>75mm</th> <th>63mm</th> <th>53mm</th> <th>37.5mm</th> <th>31.5mm</th> <th>26.5mm</th> <th>19mm</th> <th>13.2mm</th> <th>4.75mm</th> <th>2.36mm</th> <th>1.18mm</th> <th>425μm</th> <th>75μm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">単 粒 度 砕 石</td> <td>S-80(1号)</td> <td>80~60</td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>0~15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-60(2号)</td> <td>60~40</td> <td></td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>—</td> <td>0~15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-40(3号)</td> <td>40~30</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>0~15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-30(4号)</td> <td>30~20</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>—</td> <td>0~15</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-205号)</td> <td>20~13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>0~15</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-13(6号)</td> <td>13~5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>0~15</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-5(7号)</td> <td>5~2.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>85~100</td> <td>0~25</td> <td>0~5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">粒 度 調 整 砕 石</td> <td>M-40</td> <td>40~0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>95~100</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>60~90</td> <td>—</td> <td>30~65</td> <td>20~50</td> <td>—</td> <td>10~30</td> <td>2~10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M30</td> <td>30~0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>95~100</td> <td>—</td> <td>60~90</td> <td>—</td> <td>30~65</td> <td>20~50</td> <td>—</td> <td>10~30</td> <td>2~10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M-25</td> <td>25~0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>95~100</td> <td>—</td> <td>55~85</td> <td>30~65</td> <td>20~50</td> <td>—</td> <td>10~30</td> <td>2~10</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">ク ラ ッ シ ャ ラ ン</td> <td>C-40</td> <td>40~0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>95~100</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>50~80</td> <td>—</td> <td>15~40</td> <td>5~25</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C-30</td> <td>30~0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>95~100</td> <td>—</td> <td>55~85</td> <td>—</td> <td>15~45</td> <td>5~30</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C-20</td> <td>20~0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>95~100</td> <td>60~90</td> <td>20~50</td> <td>10~35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px; font-size: 1.2em;">変更なし</p>																			呼び名	ふるい目の開き 粒度範囲 (mm)	ふるいを通るものの質量分率 (%)															106mm	75mm	63mm	53mm	37.5mm	31.5mm	26.5mm	19mm	13.2mm	4.75mm	2.36mm	1.18mm	425μm	75μm	単 粒 度 砕 石	S-80(1号)	80~60	100	85~100	0~15														S-60(2号)	60~40		100	85~100	—	0~15												S-40(3号)	40~30				100	85~100	0~15											S-30(4号)	30~20					100	85~100	—	0~15									S-205号)	20~13							100	85~100	0~15								S-13(6号)	13~5								100	85~100	0~15							S-5(7号)	5~2.5									100	85~100	0~25	0~5					粒 度 調 整 砕 石	M-40	40~0				100	95~100	—	—	60~90	—	30~65	20~50	—	10~30	2~10		M30	30~0					100	95~100	—	60~90	—	30~65	20~50	—	10~30	2~10		M-25	25~0						100	95~100	—	55~85	30~65	20~50	—	10~30	2~10		ク ラ ッ シ ャ ラ ン	C-40	40~0				100	95~100	—	—	50~80	—	15~40	5~25					C-30	30~0					100	95~100	—	55~85	—	15~45	5~30					C-20	20~0							100	95~100	60~90	20~50	10~35				
呼び名	ふるい目の開き 粒度範囲 (mm)	ふるいを通るものの質量分率 (%)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		106mm	75mm	63mm	53mm	37.5mm	31.5mm	26.5mm	19mm	13.2mm	4.75mm	2.36mm	1.18mm	425μm	75μm																																																																																																																																																																																																																																																																									
単 粒 度 砕 石	S-80(1号)	80~60	100	85~100	0~15																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S-60(2号)	60~40		100	85~100	—	0~15																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	S-40(3号)	40~30				100	85~100	0~15																																																																																																																																																																																																																																																																																
	S-30(4号)	30~20					100	85~100	—	0~15																																																																																																																																																																																																																																																																														
	S-205号)	20~13							100	85~100	0~15																																																																																																																																																																																																																																																																													
	S-13(6号)	13~5								100	85~100	0~15																																																																																																																																																																																																																																																																												
	S-5(7号)	5~2.5									100	85~100	0~25	0~5																																																																																																																																																																																																																																																																										
粒 度 調 整 砕 石	M-40	40~0				100	95~100	—	—	60~90	—	30~65	20~50	—	10~30	2~10																																																																																																																																																																																																																																																																								
	M30	30~0					100	95~100	—	60~90	—	30~65	20~50	—	10~30	2~10																																																																																																																																																																																																																																																																								
	M-25	25~0						100	95~100	—	55~85	30~65	20~50	—	10~30	2~10																																																																																																																																																																																																																																																																								
ク ラ ッ シ ャ ラ ン	C-40	40~0				100	95~100	—	—	50~80	—	15~40	5~25																																																																																																																																																																																																																																																																											
	C-30	30~0					100	95~100	—	55~85	—	15~45	5~30																																																																																																																																																																																																																																																																											
	C-20	20~0							100	95~100	60~90	20~50	10~35																																																																																																																																																																																																																																																																											
<p>[注 1] 呼び名別粒度の規定に適合しない粒度の砕石であっても、他の砕石、砂、石粉等と合成したときの粒度が、所要の混合物の骨材粒度に適合すれば使用することができる。</p> <p>[注 2] 花崗岩や頁岩などの砕石で、加熱によってすりへり減量が特に大きくなったり破壊したりするものは表層に用いてはならない。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																								

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																		
<p>第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 1 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-4 再生碎石の粒度</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;"></th> <th style="width:15%;">粒度範囲 (呼び名)</th> <th style="width:15%;">40～0 (RC-40)</th> <th style="width:15%;">30～0 (RC-30)</th> <th style="width:15%;">20～0 (RC-20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ふるい目 の開き</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">通</td> <td style="text-align: center;">53mm</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">過</td> <td style="text-align: center;">37.5mm</td> <td style="text-align: center;">95～100</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">質</td> <td style="text-align: center;">31.5mm</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">95～100</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">量</td> <td style="text-align: center;">26.5mm</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">百</td> <td style="text-align: center;">19mm</td> <td style="text-align: center;">50～80</td> <td style="text-align: center;">55～85</td> <td style="text-align: center;">95～100</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">分</td> <td style="text-align: center;">13.2mm</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">60～90</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">率</td> <td style="text-align: center;">4.75mm</td> <td style="text-align: center;">15～40</td> <td style="text-align: center;">15～45</td> <td style="text-align: center;">20～50</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(%)</td> <td style="text-align: center;">2.36mm</td> <td style="text-align: center;">5～25</td> <td style="text-align: center;">5～30</td> <td style="text-align: center;">10～35</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 再生骨材の粒度は、モルタル粒などを含んだ破碎されたままの見かけの骨材 粒度を使用する。</p>		粒度範囲 (呼び名)	40～0 (RC-40)	30～0 (RC-30)	20～0 (RC-20)	ふるい目 の開き					通	53mm	100			過	37.5mm	95～100	100		質	31.5mm	—	95～100		量	26.5mm	—	—	100	百	19mm	50～80	55～85	95～100	分	13.2mm	—	—	60～90	率	4.75mm	15～40	15～45	20～50	(%)	2.36mm	5～25	5～30	10～35	<p>変更なし</p>	
	粒度範囲 (呼び名)	40～0 (RC-40)	30～0 (RC-30)	20～0 (RC-20)																																																
ふるい目 の開き																																																				
通	53mm	100																																																		
過	37.5mm	95～100	100																																																	
質	31.5mm	—	95～100																																																	
量	26.5mm	—	—	100																																																
百	19mm	50～80	55～85	95～100																																																
分	13.2mm	—	—	60～90																																																
率	4.75mm	15～40	15～45	20～50																																																
(%)	2.36mm	5～25	5～30	10～35																																																

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表			理 由
第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 1 項					
表 2-2-5 再生粒度調整碎石の粒度					
粒度範囲 (呼び名)		40～0 (RM-40)	30～0 (RM-30)	25～0 (RM-25)	
ふるい目 の開き					
通 過 質 量 百 分 率 (%)	53mm	100			変更なし
	37.5mm	95～100	100		
	31.5mm	—	95～100	100	
	26.5mm	—	—	95～100	
	19mm	60～90	60～90	—	
	13.2mm	—	—	55～85	
	4.75mm	30～65	30～65	30～65	
	2.36mm	20～50	20～50	20～50	
	425μm	10～30	10～30	10～30	
	75μm	2～10	2～10	2～10	
[注] 再生骨材の粒度は、モルタル粒などを含んだ破碎されたままの見かけの骨材粒度を使用する。					

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由						
<p>第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-6 安定性試験の限度</p> <table border="1" data-bbox="365 373 1178 466"> <thead> <tr> <th>用 途</th> <th>表層・基層</th> <th>上層路盤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>損失量 %</td> <td>12 以下</td> <td>20 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験方法は、「舗装調査・試験法便覧〔第 2 分冊〕」の「A004 硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法」による。</p>	用 途	表層・基層	上層路盤	損失量 %	12 以下	20 以下	<p>変更なし</p>	
用 途	表層・基層	上層路盤						
損失量 %	12 以下	20 以下						

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 3 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-7 碎石の品質</p> <table border="1" data-bbox="332 373 1210 600"> <thead> <tr> <th data-bbox="332 373 629 464">用 途 項 目</th> <th data-bbox="629 373 926 464">表層・基層</th> <th data-bbox="926 373 1210 464">上層路盤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="332 464 629 510">表 乾 密 度 g/cm³</td> <td data-bbox="629 464 926 510">2.45 以上</td> <td data-bbox="926 464 1210 510">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="332 510 629 556">吸 水 率 %</td> <td data-bbox="629 510 926 556">3.0 以下</td> <td data-bbox="926 510 1210 556">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="332 556 629 600">すり減り減量 %</td> <td data-bbox="629 556 926 600">30 以下^{注1)}</td> <td data-bbox="926 556 1210 600">50 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 表層、基層用碎石のすり減り減量試験は、粒径 13.2～4.7 5mm のものについて実施する。</p> <p>[注 2] 上層路盤用碎石については主として使用する粒径について 行えばよい。</p>	用 途 項 目	表層・基層	上層路盤	表 乾 密 度 g/cm ³	2.45 以上	—	吸 水 率 %	3.0 以下	—	すり減り減量 %	30 以下 ^{注1)}	50 以下	<p>変更なし</p>	
用 途 項 目	表層・基層	上層路盤												
表 乾 密 度 g/cm ³	2.45 以上	—												
吸 水 率 %	3.0 以下	—												
すり減り減量 %	30 以下 ^{注1)}	50 以下												

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																		
<p>第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-8 鉄鋼スラグの種類と主な用途</p> <table border="1" data-bbox="296 373 1249 716"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>呼び名</th> <th>用 途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単粒度製鋼スラグ</td> <td>SS</td> <td>加熱アスファルト混合物用</td> </tr> <tr> <td>クラッシュラン製鋼スラグ</td> <td>CSS</td> <td>瀝青安定処理（加熱混合）用</td> </tr> <tr> <td>粒度調整鉄鋼スラグ</td> <td>MS</td> <td>上層路盤材</td> </tr> <tr> <td>水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td> <td>HMS</td> <td>上層路盤材</td> </tr> <tr> <td>クラッシュラン鉄鋼スラグ</td> <td>CS</td> <td>下層路盤材</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	呼び名	用 途	単粒度製鋼スラグ	SS	加熱アスファルト混合物用	クラッシュラン製鋼スラグ	CSS	瀝青安定処理（加熱混合）用	粒度調整鉄鋼スラグ	MS	上層路盤材	水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	HMS	上層路盤材	クラッシュラン鉄鋼スラグ	CS	下層路盤材	<p>変更なし</p>	
名 称	呼び名	用 途																		
単粒度製鋼スラグ	SS	加熱アスファルト混合物用																		
クラッシュラン製鋼スラグ	CSS	瀝青安定処理（加熱混合）用																		
粒度調整鉄鋼スラグ	MS	上層路盤材																		
水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	HMS	上層路盤材																		
クラッシュラン鉄鋼スラグ	CS	下層路盤材																		

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表					理 由
第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 5 項							
表 2-2-9 鉄鋼スラグの規格							
呼び名	修 正 C B R %	一軸圧縮 強 さ MPa	単位容積 質 量 kg/l	呈 色 判定試験	水浸膨張比 %	エージング 期 間	
MS	80 以上	—	1.5 以上	呈色なし	1.5 以下	6 ヶ月以上	
HMS	80 以上	1.2 以上	1.5 以上	呈色なし	1.5 以下	6 ヶ月以上	
CS	30 以上	—	—	呈色なし	1.5 以下	6 ヶ月以上	
<p>[注 1] 呈色判定は、高炉徐冷スラグを用いた鉄鋼スラグに適用する。</p> <p>[注 2] 水浸膨張比は、製鋼スラグを用いた鉄鋼スラグに適用する。</p> <p>[注 3] エージングとは高炉徐冷スラグの黄濁水発生防止や製鋼スラグの膨張性安定化を目的とし、冷却固化した高炉徐冷スラグ及び製鋼スラグを破碎後、空気及び水と反応させる処理をいう。エージング方法には、空気及び水による通常エージングと温水または蒸気による促進エージングがある。</p> <p>[注 4] エージング期間は、製鋼スラグを用いた鉄鋼スラグの通常エージングに適用する。ただし、電気炉スラグを 3 ヶ月以上通常エージングした後の水浸膨張比が 0.6%以下となる場合及び製鋼スラグを促進エージングした場合は、施工実績などを参考にし、膨張性が安定したことを十分確認してエージング期間を短縮することができる。</p>							
変更なし							

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																		
<p>第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-10 鉄鋼スラグ（製鋼スラグ）の規格</p> <table border="1" data-bbox="305 373 1237 600"> <thead> <tr> <th>呼び名</th> <th>表乾密度 (g/cm³)</th> <th>吸水率 (%)</th> <th>すりへり 減 量 (%)</th> <th>水浸膨張比 (%)</th> <th>エージング 期 間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CSS</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>50 以下</td> <td>2.0 以下</td> <td>3 ヶ月以上</td> </tr> <tr> <td>SS</td> <td>2.45 以上</td> <td>3.0 以下</td> <td>30 以下</td> <td>2.0 以下</td> <td>3 ヶ月以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 試験方法は、「舗装調査・試験法便覧」を参照する。</p> <p>[注 2] エージングとは製鋼スラグの膨張性安定化を目的とし、製鋼スラグを破碎後、空気及び水と反応させる処理（通常エージング）をいう。</p>	呼び名	表乾密度 (g/cm ³)	吸水率 (%)	すりへり 減 量 (%)	水浸膨張比 (%)	エージング 期 間	CSS	—	—	50 以下	2.0 以下	3 ヶ月以上	SS	2.45 以上	3.0 以下	30 以下	2.0 以下	3 ヶ月以上	<p>変更なし</p>	
呼び名	表乾密度 (g/cm ³)	吸水率 (%)	すりへり 減 量 (%)	水浸膨張比 (%)	エージング 期 間															
CSS	—	—	50 以下	2.0 以下	3 ヶ月以上															
SS	2.45 以上	3.0 以下	30 以下	2.0 以下	3 ヶ月以上															

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表						理 由
第 2 編材料編 2-2-3-3 アスファルト舗装用骨材 第 8 項								
表 2-2-11 スクリーニングスの粒度範囲								
種 類	呼び名	通過質量百分率 %						
		ふるいの目の開き						
		4.75mm	2.36mm	600 μ m	300 μ m	150 μ m	75 μ m	
スクリーニングス	F-2.5	100	85～100	25～55	15～40	7～28	0～20	
		変更なし						

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由											
<p>第 2 編材料編 2-2-3-4 アスファルト用再生骨材</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-12 アスファルトコンクリート再生骨材の品質</p> <table border="1" data-bbox="284 373 1258 558"> <tr> <td>旧アスファルトの含有量</td> <td style="text-align: center;">%</td> <td>3.8 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">旧アスファルトの性状</td> <td>針入度 1/10mm</td> <td>20 以上</td> </tr> <tr> <td>圧裂係数 MPa/mm</td> <td>1.70 以下</td> </tr> <tr> <td>骨材の微粒分量</td> <td style="text-align: center;">%</td> <td>5 以下</td> </tr> </table> <p>[注 1] アスファルトコンクリート再生骨材中に含まれるアスファルトを旧アスファルト、新たに用いる舗装用石油アスファルトを新アスファルトと称する。</p> <p>[注 2] アスファルトコンクリート再生骨材は、通常 20～13 mm、13～5 mm、5～0 mm の 3 種類の粒度や 20～13 mm、13～0 mm の 2 種類の粒度にふるい分けられるが、本表に示される規格は、13～0 mm の粒度区分のものに適用する。</p> <p>[注 3] アスファルトコンクリート再生骨材の 13 mm 以下が 2 種類にふるい分けられている場合には、再生骨材の製造時における各粒度区分の比率に応じて合成した試料で試験するか、別々に試験して合成比率に応じて計算により 13～0 mm 相当分を求めてもよい。また、13～0 mm あるいは 13～5 mm、5～0 mm 以外でふるい分けられている場合には、ふるい分け前の全試料から 13～0 mm をふるい取ってこれを対象に試験を行う。</p> <p>[注 4] アスファルトコンクリート再生骨材中の旧アスファルト含有量及び 75 μm を通過する量は、アスファルトコンクリート再生骨材の乾燥質量に対する百分率で表す。</p> <p>[注 5] 骨材の微粒分量試験は JIS A 1103（骨材の微粒分量試験方法）により求める。</p> <p>[注 6] アスファルト混合物層の切削材は、その品質が本表に適合するものであれば再生加熱アスファルト混合物に利用できる。ただし、切削材は粒度がばらつきやすいので他のアスファルトコンクリート発生材を調整して使用することが望ましい。</p> <p>[注 7] 旧アスファルトの性状は、針入度または、圧裂係数のどちらかが基準を満足すればよい。</p>	旧アスファルトの含有量	%	3.8 以上	旧アスファルトの性状	針入度 1/10mm	20 以上	圧裂係数 MPa/mm	1.70 以下	骨材の微粒分量	%	5 以下	<p>変更なし</p>	
旧アスファルトの含有量	%	3.8 以上											
旧アスファルトの性状	針入度 1/10mm	20 以上											
	圧裂係数 MPa/mm	1.70 以下											
骨材の微粒分量	%	5 以下											

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由								
<p>第 2 編材料編 2-2-3-5 フィラー 第 2 項</p> <p>表 2-2-13 石粉、回収ダスト及びフライアッシュの粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="338 373 1207 556"> <thead> <tr> <th>ふるい目 (μ m)</th> <th>ふるいを通るものの質量百分率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>600</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>150</td> <td>90～100</td> </tr> <tr> <td>75</td> <td>70～100</td> </tr> </tbody> </table>	ふるい目 (μ m)	ふるいを通るものの質量百分率 (%)	600	100	150	90～100	75	70～100	<p>変更なし</p>	
ふるい目 (μ m)	ふるいを通るものの質量百分率 (%)									
600	100									
150	90～100									
75	70～100									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 2 編材料編 2-2-3-5 フィラー 第 3 項</p> <p>表 2-2-14 フライアッシュ、石灰岩以外の岩石を粉砕した石粉を フィラーとして使用する場合の規定</p> <table border="1" data-bbox="430 415 1113 646"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塑性指数（PI）</td> <td>4 以 下</td> </tr> <tr> <td>フロー試験 %</td> <td>5 0 以 下</td> </tr> <tr> <td>吸水膨張 %</td> <td>3 以 下</td> </tr> <tr> <td>剥離試験</td> <td>1 / 4 以 下</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	規 定	塑性指数（PI）	4 以 下	フロー試験 %	5 0 以 下	吸水膨張 %	3 以 下	剥離試験	1 / 4 以 下	<p style="text-align: center;">変更なし</p>	
項 目	規 定											
塑性指数（PI）	4 以 下											
フロー試験 %	5 0 以 下											
吸水膨張 %	3 以 下											
剥離試験	1 / 4 以 下											

現行（平成 25 年度）表								新（平成 27 年度）表								理 由
第 2 編材料編 2-2-3-6 安定材 第 1 項								第 2 編材料編 2-2-3-6 安定材 第 1 項								
表 2-2-15 舗装用石油アスファルトの規格								表 2-2-15 舗装用石油アスファルトの規格								
種 類 項 目	40～60	60～80	80～100	100～120	120～150	150～200	200～300	種 類 項 目	40～60	60～80	80～100	100～120	120～150	150～200	200～300	
針入度(25℃) 1/10mm	40 を超え 60 以下	60 を超え 80 以下	80 を超え 100 以下	100 を超え 120 以下	120 を超え 150 以下	150 を超え 200 以下	200 を超え 300 以下	針入度(25℃) 1/10mm	40 を超え 60 以下	60 を超え 80 以下	80 を超え 100 以下	100 を超え 120 以下	120 を超え 150 以下	150 を超え 200 以下	200 を超え 300 以下	
軟化点 ℃	47.0～ 55.0	44.0～ 52.0	42.0～ 50.0	40.0～ 50.0	38.0～ 48.0	30.0～ 45.0	30.0～ 45.0	軟化点 ℃	47.0～ 55.0	44.0～ 52.0	42.0～ 50.0	40.0～ 50.0	38.0～ 48.0	30.0～ 45.0	30.0～ 45.0	
伸度(15℃) cm	10 以上	100 以上	100 以上	100 以上	100 以上	100 以上	100 以上	伸度(15℃) cm	10 以上	100 以上	100 以上	100 以上	100 以上	100 以上	100 以上	
トルエン 可溶分 %	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	トルエン 可溶分 %	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	99.0 以上	
引火点 ℃	260 以上	260 以上	260 以上	260 以上	240 以上	210 以上	210 以上	引火点 ℃	260 以上	260 以上	260 以上	260 以上	240 以上	240 以上	210 以上	
薄膜加熱質量 変化率 %	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	—	—	—	薄膜加熱質量 変化率 %	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	0.6 以下	—	—	—	
薄膜加熱針入度 残留率 %	58 以上	55 以上	50 以上	50 以上	—	—	—	薄膜加熱針入度 残留率 %	58 以上	55 以上	50 以上	50 以上	—	—	—	
蒸発後の 針入度比 %	110 以下	110 以下	110 以下	110 以下	—	—	—	蒸発後の質量 変化率 %	—	—	—	—	0.5 以下	1.0 以下	1.0 以下	
密度(15℃) g/c cm ³	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上	蒸発後の 針入度比 %	110 以下	110 以下	110 以下	110 以下	—	—	—	
[注] 各種類とも 120℃、150℃、180℃のそれぞれにおける動粘度を試験表に付記する。								密度(15℃) g/c cm ³								「舗装再生 便覧（平成 22 年版）」 の内容修正 による改定
								[注] 各種類とも 120℃、150℃、180℃のそれぞれにおける動粘度を試験表に付記する。								

現行（平成 25 年度）表										新（平成 27 年度）表										理 由						
第 2 編材料編 2-2-3-6 安定材 第 1 項																										
表 2-2-16 石油アスファルト乳剤の規格																										
種類及び記号 項 目		カチオン乳剤								ノニオン乳剤																
		PK-1	PK-2	PK-3	PK-4	MK-1	MK-2	MK-3	MN-1																	
エングラード度 (25℃)		3~15		1~6		3~40				2~30																
ふるい残留分 (質量%) (1.18mm)		0.3 以下								0.3 以下																
付 着 度		2/3 以上				-				-																
粗粒度骨材混合性		-				均等であること		-		-																
密粒度骨材混合性		-				均等であること		-		-																
土混り骨材混合性(質量%)		-				5 以下				-																
セメント混合性 (質量%)		-								1.0 以下																
粒子の電荷		陽 (+)								-																
蒸発残留分 (質量%)		60 以上		50 以上		57 以上				57 以上																
蒸発残留物	針入度 (25℃) (1/10mm)	100 を 超え 200 以下	150 を 超え 300 以下	100 を 超え 300 以下	60 を 超え 150 以下	60 を 超え 200 以下		60 を 超え 300 以下		60 を 超え 300 以下																
	トルエン可溶分 (質量%)	98 以上				97 以上				97 以上																
貯蔵安定度 (24hr) (質量%)		1 以下								1 以下																
凍結安定度 (-5℃)		-		粗粒子、塊がないこと		-				-																
主 な 用 途		温暖期浸透用 表面処理用		寒冷期浸透用 表面処理用		セメント安定処理層養生用 及び プライムコート用		タックコート用		粗粒度骨材混合用		密粒度骨材混合用		土混り骨材混合用		セメント・アスファルト 乳剤安定処理混合用										
[注 1] 種類記号の説明 P：浸透用乳剤、M：混合用乳剤、K：カチオン乳剤、N：ノニオン乳剤																										
[注 2] エングラード度が 15 以下の乳剤については JIS K 2208 (石油アスファルト乳剤) 6.3 エングラード試験方法によって求め、15 を超える乳剤については JIS K 2208 (石油アスファルト乳剤) 6.4 セイボルトフロール秒試験方法によって粘度を求め、エングラード度に換算する。																										
変更なし																										

現行（平成 25 年度）表				新（平成 27 年度）表	理 由
第 2 編材料編 2-2-6-2 セメント 第 1 項					
表 2-2-17 セメントの種類					
JIS 番号	名 称	区 分	摘 要		
R 5210	ポルトランド セメント	(1)普通ポルトランド (2)早強ポルトランド (3)中庸熱ポルトランド (4)超早強ポルトランド (5)低熱ポルトランド (6)耐硫酸塩ポルトランド	低アルカリ形を含む " " " " "		
R 5211	高炉セメント	(1)A種高炉 (2)B種高炉 (3)C種高炉	高炉スラグの分量（質量%） 5 を超え 30 以下 30 を超え 60 以下 60 を超え 70 以下		
R 5212	シリカセメント	(1)A種シリカ (2)B種シリカ (3)C種シリカ	シリカ質混合材の分量（質量%） 5 を超え 10 以下 10 を超え 20 以下 20 を超え 30 以下	変更なし	
R5213	フライアッシュ セメント	(1)A種フライアッシュ (2)B種フライアッシュ (3)C種フライアッシュ	フライアッシュの分量（質量%） 5 を超え 10 以下 10 を超え 20 以下 20 を超え 30 以下		
R 5214	エコセメント	(1)普通エコセメント (2)速硬エコセメント	塩化物イオン量（質量%） 0.1 以下 0.5 以上 1.5 以下		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																											
<p>第 2 編材料編 2-2-6-2 セメント 第 3 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-18 普通ポルトランドセメントの品質</p> <table border="1" data-bbox="368 373 1175 1276"> <thead> <tr> <th colspan="2">品 質</th> <th>規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">比 表 面 積 cm^2/g</td> <td>2,500 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">凝 結 h</td> <td>始 発</td> <td>1 以上</td> </tr> <tr> <td>終 結</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">安 定 性</td> <td>パット法</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>ルシャチリエ法 mm</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">圧 縮 強 さ N/mm^2</td> <td>3 d</td> <td>12.5 以上</td> </tr> <tr> <td>7 d</td> <td>22.5 以上</td> </tr> <tr> <td>28d</td> <td>42.5 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">水 和 熱 J/g</td> <td>7 d</td> <td>350 以下</td> </tr> <tr> <td>28d</td> <td>400 以下</td> </tr> <tr> <td colspan="2">酸化マグネシウム%</td> <td>5.0 以下</td> </tr> <tr> <td colspan="2">三酸化硫黄%</td> <td>3.5 以下</td> </tr> <tr> <td colspan="2">強熱減量%</td> <td>5.0 以下</td> </tr> <tr> <td colspan="2">全アルカリ (Na o eq)%</td> <td>0.75 以下</td> </tr> <tr> <td colspan="2">塩化物イオン%</td> <td>0.035 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 普通ポルトランドセメント (低アルカリ形) については、全アルカリ (Na o eq) の値を 0.6% 以下とする。</p>	品 質		規 格	比 表 面 積 cm^2/g		2,500 以上	凝 結 h	始 発	1 以上	終 結	10 以下	安 定 性	パット法	良	ルシャチリエ法 mm	10 以下	圧 縮 強 さ N/mm^2	3 d	12.5 以上	7 d	22.5 以上	28d	42.5 以上	水 和 熱 J/g	7 d	350 以下	28d	400 以下	酸化マグネシウム%		5.0 以下	三酸化硫黄%		3.5 以下	強熱減量%		5.0 以下	全アルカリ (Na o eq)%		0.75 以下	塩化物イオン%		0.035 以下	<p>変更なし</p>	
品 質		規 格																																											
比 表 面 積 cm^2/g		2,500 以上																																											
凝 結 h	始 発	1 以上																																											
	終 結	10 以下																																											
安 定 性	パット法	良																																											
	ルシャチリエ法 mm	10 以下																																											
圧 縮 強 さ N/mm^2	3 d	12.5 以上																																											
	7 d	22.5 以上																																											
	28d	42.5 以上																																											
水 和 熱 J/g	7 d	350 以下																																											
	28d	400 以下																																											
酸化マグネシウム%		5.0 以下																																											
三酸化硫黄%		3.5 以下																																											
強熱減量%		5.0 以下																																											
全アルカリ (Na o eq)%		0.75 以下																																											
塩化物イオン%		0.035 以下																																											

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表							理 由
第 2 編材料編 2-2-8-1 瀝青材料 第 2 項									
表 2-2-19 ポリマー改質アスファルトの標準的性状									
項目	種類	I 型	II 型	III 型		H 型		H 型-F	
	付加記号			III 型-W	III 型-WF				
軟化点	℃	50.0 以上	56.0 以上	70.0 以上		80.0 以上			
伸度	(7℃) cm	30 以上	—	—		—	—		
	(15℃) cm	—	30 以上	50 以上		50 以上	—		
タフネス (25℃)	N・m	5.0 以上	8.0 以上	16 以上		20 以上	—		
テナシティ (25℃)	N・m	2.5 以上	4.0 以上	—		—	—		
粗骨材の剥離面積率	%	—	—	—	5 以下		—	—	
フラース脆化点	℃	—	—	—	—	-12 以下	—	-12 以下	
曲げ仕事量 (-20℃)	kPa	—	—	—	—	—	—	400 以上	
曲げスティフネス (-20℃)	MPa	—	—	—	—	—	—	100 以下	
針入度 (25℃)	1/10 mm	40 以上							
薄膜加熱質量変化率	%	0.6 以下							
薄膜加熱後の針入度残留率	%	65 以上							
引火点	℃	260 以上							
密度 (15℃)	g/cm ³	試験表に付記							
最適混合温度	℃	試験表に付記							
最適締固め温度	℃	試験表に付記							
[注] 付加記号の略字 W:耐水性 (Water resistance) F:可撓性 Flexibility									

変更なし

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																		
<p>第 2 編材料編 2-2-8-1 瀝青材料 第 3 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-20 セミブローンアスファルト（AC-100）の規格</p> <table border="1" data-bbox="302 371 1240 863"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規 格 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粘度(60℃)Pa·s</td> <td>1,000±200</td> </tr> <tr> <td>粘度(180℃) mm²/s</td> <td>200 以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率 %</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>針入度(25℃) 1/10mm</td> <td>40 以上</td> </tr> <tr> <td>トルエン可溶分 %</td> <td>99.0 以上</td> </tr> <tr> <td>引火点℃</td> <td>260 以上</td> </tr> <tr> <td>密度(15℃)g/cm³</td> <td>1.000 以上</td> </tr> <tr> <td>粘度比(60℃、薄膜加熱後/加熱前)</td> <td>5.0 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 180℃での粘度のほか、140℃、160℃における動粘度を試験表に付記すること。</p>	項 目	規 格 値	粘度(60℃)Pa·s	1,000±200	粘度(180℃) mm ² /s	200 以下	薄膜加熱質量変化率 %	0.6 以下	針入度(25℃) 1/10mm	40 以上	トルエン可溶分 %	99.0 以上	引火点℃	260 以上	密度(15℃)g/cm ³	1.000 以上	粘度比(60℃、薄膜加熱後/加熱前)	5.0 以下	<p>変更なし</p>	
項 目	規 格 値																			
粘度(60℃)Pa·s	1,000±200																			
粘度(180℃) mm ² /s	200 以下																			
薄膜加熱質量変化率 %	0.6 以下																			
針入度(25℃) 1/10mm	40 以上																			
トルエン可溶分 %	99.0 以上																			
引火点℃	260 以上																			
密度(15℃)g/cm ³	1.000 以上																			
粘度比(60℃、薄膜加熱後/加熱前)	5.0 以下																			

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由
第 2 編材料編 2-2-8-1 瀝青材料 第 4 項				
表 2-2-21 硬質アスファルトに用いるアスファルトの標準的性状				
項目	種類	石油アスファルト 20～40	トリニダッドレイク アスファルト	
針入度（25℃）	1/10 mm	20 を超え 40 以下	1～4	
軟化点	℃	55.0～65.0	93～98	
伸度（25℃）	cm	50 以上	—	
蒸発質量変化率	%	0.3 以下	—	
トルエン可溶分	%	99.0 以上	52.5～55.5	
引火点	℃	260 以上	240 以上	
密度（15℃）	g/cm ³	1.00 以上	1.38～1.42	
<p>[注] 石油アスファルト 20～40 の代わりに、石油アスファルト 40～60 などを使用する場合もある。</p>				
		変更なし		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																
<p>第 2 編材料編 2-2-8-1 瀝青材料 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-22 硬質アスファルトの標準的性状</p> <table border="1" data-bbox="210 373 1332 743"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>標準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度（25℃） 1/10 mm</td> <td>15～30</td> </tr> <tr> <td>軟化点 ℃</td> <td>58～68</td> </tr> <tr> <td>伸度（25℃） cm</td> <td>10 以上</td> </tr> <tr> <td>蒸発質量変化率 %</td> <td>0.5 以下</td> </tr> <tr> <td>トルエン可溶分 %</td> <td>86～91</td> </tr> <tr> <td>引火点 ℃</td> <td>240 以上</td> </tr> <tr> <td>密度（15℃） g/cm³</td> <td>1.07～1.13</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	標準値	針入度（25℃） 1/10 mm	15～30	軟化点 ℃	58～68	伸度（25℃） cm	10 以上	蒸発質量変化率 %	0.5 以下	トルエン可溶分 %	86～91	引火点 ℃	240 以上	密度（15℃） g/cm ³	1.07～1.13	<p>変更なし</p>	
項 目	標準値																	
針入度（25℃） 1/10 mm	15～30																	
軟化点 ℃	58～68																	
伸度（25℃） cm	10 以上																	
蒸発質量変化率 %	0.5 以下																	
トルエン可溶分 %	86～91																	
引火点 ℃	240 以上																	
密度（15℃） g/cm ³	1.07～1.13																	

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由
第 2 編材料編 2-2-8-1 瀝青材料 第 5 項				
表 2-2-23 ゴム入りアスファルト乳剤の標準的性状				
		種類および記号	PKR-T	
項 目				
エングラード度 (25℃)			1～10	
ふるい残留分 (1.18mm) %			0.3 以下	
付着度			2/3 以上	
粒子の電荷			陽 (+)	
蒸発残留分 %			50 以上	
蒸 発 残 留 物	針入度 (25℃) 1/10mm		60 を超え 150 以下	
	軟化点 ℃		42.0 以上	
	タフネス	(25℃) N・m	3.0 以上	
		(15℃) N・m	—	
	テナシティ	(25℃) N・m	1.5 以上	
		(15℃) N・m	—	
貯蔵安定度 (24 h r) 質量 %			1 以下	
		変更なし		

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由
第 2 編材料編 2-2-8-3 再生用添加剤				
<p>表 2-2-24 再生用添加剤の品質（エマルジョン系）</p> <p>路上表層再生用</p>				
	項 目	単 位	規 格 値	試 験 方 法
	粘 度 (25℃)	SFS	15～85	舗装調査・試験法便覧 A072
	蒸 発 残 留 分	%	60 以上	舗装調査・試験法便覧 A079
蒸 発 残 留 物	引 火 点 (COC)	℃	200 以上	舗装調査・試験法便覧 A045
	粘 度 (60℃)	mm ² /S	50～300	舗装調査・試験法便覧 A051
	薄膜加熱後の粘度比(60℃)		2 以下	舗装調査・試験法便覧 A046
	薄膜加熱質量変化率	%	6.0 以下	舗装調査・試験法便覧 A046
		変更なし		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																				
<p>第 2 編材料編 2-2-8-3 再生用添加剤</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-25 再生用添加剤の品質（オイル系）</p> <p>路上表層再生用</p> <table border="1" data-bbox="234 464 1308 720"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>単 位</th> <th>規 格 値</th> <th>試 験 方 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引 火 点 (COC)</td> <td>℃</td> <td>200 以上</td> <td>舗装調査・試験法便覧 A045</td> </tr> <tr> <td>粘 度 (60℃)</td> <td>mm²/S</td> <td>50～300</td> <td>舗装調査・試験法便覧 A051</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (60℃)</td> <td></td> <td>2 以下</td> <td>舗装調査・試験法便覧 A046</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>%</td> <td>6.0 以下</td> <td>舗装調査・試験法便覧 A046</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	単 位	規 格 値	試 験 方 法	引 火 点 (COC)	℃	200 以上	舗装調査・試験法便覧 A045	粘 度 (60℃)	mm ² /S	50～300	舗装調査・試験法便覧 A051	薄膜加熱後の粘度比 (60℃)		2 以下	舗装調査・試験法便覧 A046	薄膜加熱質量変化率	%	6.0 以下	舗装調査・試験法便覧 A046	<p>変更なし</p>	
項 目	単 位	規 格 値	試 験 方 法																			
引 火 点 (COC)	℃	200 以上	舗装調査・試験法便覧 A045																			
粘 度 (60℃)	mm ² /S	50～300	舗装調査・試験法便覧 A051																			
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)		2 以下	舗装調査・試験法便覧 A046																			
薄膜加熱質量変化率	%	6.0 以下	舗装調査・試験法便覧 A046																			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由														
<p>第 2 編材料編 2-2-8-3 再生用添加剤</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p>プラント再生用</p> <table border="1" data-bbox="320 417 1222 785"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動 粘 度 (60℃) mm²/S</td> <td>80～1,000</td> </tr> <tr> <td>引 火 点 °C</td> <td>250 以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (60℃)</td> <td>2 以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率 %</td> <td>±3 以内</td> </tr> <tr> <td>密 度 (15℃) g/cm³</td> <td>報告</td> </tr> <tr> <td>組 成 (石油学会法 JPI-5S-70-10)</td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため 0.95g/cm³ とすることが望ましい。</p>	項 目	標準的性状	動 粘 度 (60℃) mm ² /S	80～1,000	引 火 点 °C	250 以上	薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2 以下	薄膜加熱質量変化率 %	±3 以内	密 度 (15℃) g/cm ³	報告	組 成 (石油学会法 JPI-5S-70-10)	報告	<p>変更なし</p>	
項 目	標準的性状															
動 粘 度 (60℃) mm ² /S	80～1,000															
引 火 点 °C	250 以上															
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	2 以下															
薄膜加熱質量変化率 %	±3 以内															
密 度 (15℃) g/cm ³	報告															
組 成 (石油学会法 JPI-5S-70-10)	報告															

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																																																
<p>第 2 編材料編 2-2-12-1 道路標識</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-27 反射性能（反射シートの再帰反射係数）</p> <table border="1" data-bbox="439 373 1104 739"> <thead> <tr> <th></th> <th>観測角°</th> <th>入射角°</th> <th>白</th> <th>黄</th> <th>赤</th> <th>緑</th> <th>青</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">封入レンズ型</td> <td rowspan="2">12'</td> <td>5°</td> <td>70</td> <td>50</td> <td>15</td> <td>9.0</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>6.0</td> <td>3.5</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">20'</td> <td>5°</td> <td>50</td> <td>35</td> <td>10</td> <td>7.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>24</td> <td>16</td> <td>4.0</td> <td>3.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">2°</td> <td>5°</td> <td>5.0</td> <td>3.0</td> <td>0.8</td> <td>0.6</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>2.5</td> <td>1.5</td> <td>0.4</td> <td>0.3</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験及び測定方法は、JIS Z 9117（再帰性反射材）による。</p>		観測角°	入射角°	白	黄	赤	緑	青	封入レンズ型	12'	5°	70	50	15	9.0	4.0	30°	30	22	6.0	3.5	1.7		20'	5°	50	35	10	7.0	2.0	30°	24	16	4.0	3.0	1.0		2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.6	0.2	30°	2.5	1.5	0.4	0.3	0.1	<p>第 2 編材料編 2-2-12-1 道路標識</p> <p style="text-align: center;">表 2-2-27 封入レンズ型反射シートの反射性能</p> <table border="1" data-bbox="1573 373 2267 739"> <thead> <tr> <th>観測角°</th> <th>入射角°</th> <th>白</th> <th>黄</th> <th>赤</th> <th>青</th> <th>緑</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">12' (0.2°)</td> <td>5°</td> <td>70</td> <td>50</td> <td>15</td> <td>4.0</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>6.0</td> <td>1.7</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">20' (0.33°)</td> <td>5°</td> <td>50</td> <td>35</td> <td>10</td> <td>2.0</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>24</td> <td>16</td> <td>4.0</td> <td>1.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2°</td> <td>5°</td> <td>5.0</td> <td>3.0</td> <td>0.8</td> <td>0.2</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>2.5</td> <td>1.5</td> <td>0.4</td> <td>0.1</td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験及び測定方法は、JIS Z 9117（再帰性反射材）による。</p>	観測角°	入射角°	白	黄	赤	青	緑	12' (0.2°)	5°	70	50	15	4.0	9.0	30°	30	22	6.0	1.7	3.5	20' (0.33°)	5°	50	35	10	2.0	7.0	30°	24	16	4.0	1.0	3.0	2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.2	0.6	30°	2.5	1.5	0.4	0.1	0.3	
	観測角°	入射角°	白	黄	赤	緑	青																																																																																											
封入レンズ型	12'	5°	70	50	15	9.0	4.0																																																																																											
		30°	30	22	6.0	3.5	1.7																																																																																											
	20'	5°	50	35	10	7.0	2.0																																																																																											
		30°	24	16	4.0	3.0	1.0																																																																																											
	2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.6	0.2																																																																																											
		30°	2.5	1.5	0.4	0.3	0.1																																																																																											
観測角°	入射角°	白	黄	赤	青	緑																																																																																												
12' (0.2°)	5°	70	50	15	4.0	9.0																																																																																												
	30°	30	22	6.0	1.7	3.5																																																																																												
20' (0.33°)	5°	50	35	10	2.0	7.0																																																																																												
	30°	24	16	4.0	1.0	3.0																																																																																												
2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.2	0.6																																																																																												
	30°	2.5	1.5	0.4	0.1	0.3																																																																																												

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																																																													
<p>第 2 編材料編 2-2-12-1 道路標識</p> <p>表 2-2-28 反射性能（反射シートの再帰反射係数）</p> <table border="1" data-bbox="439 373 1104 739"> <thead> <tr> <th></th> <th>観測角°</th> <th>入射角°</th> <th>白</th> <th>黄</th> <th>赤</th> <th>緑</th> <th>青</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">カプセルレンズ型</td> <td rowspan="2">12'</td> <td>5°</td> <td>250</td> <td>170</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>150</td> <td>100</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">20'</td> <td>5°</td> <td>180</td> <td>122</td> <td>25</td> <td>21</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>100</td> <td>67</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">2</td> <td>5°</td> <td>5.0</td> <td>3.0</td> <td>0.8</td> <td>0.6</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>2.5</td> <td>1.8</td> <td>0.4</td> <td>0.3</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験及び測定方法は、JIS Z 9117（再帰性反射材）による。</p>		観測角°	入射角°	白	黄	赤	緑	青	カプセルレンズ型	12'	5°	250	170	45	45	20	30°	150	100	25	25	11		20'	5°	180	122	25	21	14	30°	100	67	14	12	8.0		2	5°	5.0	3.0	0.8	0.6	0.3	30°	2.5	1.8	0.4	0.3	0.1	<p>第 2 編材料編 2-2-12-1 道路標識</p> <p>表 2-2-28 カプセルレンズ型反射シートの反射性能</p> <table border="1" data-bbox="1584 373 2261 739"> <thead> <tr> <th>観測角°</th> <th>入射角°</th> <th>白</th> <th>黄</th> <th>赤</th> <th>青</th> <th>緑</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">12'</td> <td>5°</td> <td>250</td> <td>170</td> <td>45</td> <td>20</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>150</td> <td>100</td> <td>25</td> <td>11</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(0.2°)</td> <td>5°</td> <td>180</td> <td>122</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>100</td> <td>67</td> <td>14</td> <td>8.0</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">20'</td> <td>5°</td> <td>5.0</td> <td>3.0</td> <td>0.8</td> <td>0.3</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>2.5</td> <td>1.8</td> <td>0.4</td> <td>0.1</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2°</td> <td>5°</td> <td>5.0</td> <td>3.0</td> <td>0.8</td> <td>0.3</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>2.5</td> <td>1.8</td> <td>0.4</td> <td>0.1</td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験及び測定方法は、JIS Z 9117（再帰性反射材）による。</p>	観測角°	入射角°	白	黄	赤	青	緑	12'	5°	250	170	45	20	45	30°	150	100	25	11	25	(0.2°)	5°	180	122	25	14	21	30°	100	67	14	8.0	12	20'	5°	5.0	3.0	0.8	0.3	0.6	30°	2.5	1.8	0.4	0.1	0.3	2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.3	0.6	30°	2.5	1.8	0.4	0.1	0.3	
	観測角°	入射角°	白	黄	赤	緑	青																																																																																																								
カプセルレンズ型	12'	5°	250	170	45	45	20																																																																																																								
		30°	150	100	25	25	11																																																																																																								
	20'	5°	180	122	25	21	14																																																																																																								
		30°	100	67	14	12	8.0																																																																																																								
	2	5°	5.0	3.0	0.8	0.6	0.3																																																																																																								
		30°	2.5	1.8	0.4	0.3	0.1																																																																																																								
観測角°	入射角°	白	黄	赤	青	緑																																																																																																									
12'	5°	250	170	45	20	45																																																																																																									
	30°	150	100	25	11	25																																																																																																									
(0.2°)	5°	180	122	25	14	21																																																																																																									
	30°	100	67	14	8.0	12																																																																																																									
20'	5°	5.0	3.0	0.8	0.3	0.6																																																																																																									
	30°	2.5	1.8	0.4	0.1	0.3																																																																																																									
2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.3	0.6																																																																																																									
	30°	2.5	1.8	0.4	0.1	0.3																																																																																																									

現行（平成 25 年度）表			新（平成 27 年度）表	理 由
第 3 編土木工事共通編 3-1-1-6 監督職員による検査（確認を含む）及び立会等 第 7 項				
表 3-1-1 段階確認一覧表				
種 別	細 別	確 認 時 期		
指定仮設工		設置完了時		
河川・海岸・砂防土工（掘削工） 道路土工（掘削工）		土（岩）質の変化した時		
道路土工（路床盛土工） 舗装工（下層路盤）		ブルーフローリング実施時		
表層安定処理工	表層混合処理・路床安定処理	処理完了時		
	置換	掘削完了時		
	サンドマット	処理完了時		
パーチカルドレーン工	サンドドレーン 袋詰式サンドドレーン ペーパドレーン	施工時 施工完了時		
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時 施工完了時		
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイル	施工時 施工完了時		
	薬液注入	施工時		
矢板工 （任意仮設を除く）	鋼矢板 鋼管矢板	打込時 打込完了時		
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時 打込完了時（打込杭） 掘削完了時（中堀杭） 施工完了時（中堀杭） 杭頭処理完了時		
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アースドリル杭 大口径杭	掘削完了時 鉄筋組立て完了時 施工完了時 杭頭処理完了時		
深礎工		土(岩)質の変化した時 掘削完了時 鉄筋組立て完了時 施工完了時 グラウト注入時		
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄杵据え付け完了時 本体設置前（オープンケーソン） 掘削完了時(ニューマチックケーソン) 土(岩)質の変化した時 鉄筋組立て完了時		
鋼管矢板基礎工		打込時 打込完了時 杭頭処理完了時		
			変更なし	

現行（平成 25 年度）表			新（平成 27 年度）表	理 由
種 別	細 別	確 認 時 期	変更なし	
置換工(重要構造物)		掘削完了時		
築堤・護岸工		法線設置完了時		
砂防堰堤		法線設置完了時		
護岸工	法覆工(覆土施工がある場合)	覆土前		
	基礎工・根固工	設置完了時		
重要構造物 函渠工(樋門・樋管含む) 躯体工(橋台) R C 躯体工(橋脚) 橋脚フーチング工 R C 擁壁 砂防堰堤 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した時 床掘削完了時 鉄筋組立て完了時 埋戻し前		
躯体工 R C 躯体工		杵座の位置決定時		
床版工		鉄筋組立て完了時		
鋼橋		仮組立て完了時(仮組立てが省略となる場合を除く)		
ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 P C ホロースラブ製作工 P C 版桁製作工 P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工 P C 押し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 P C 鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)		
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時		
トンネル支保工		支保工完了時 (保工変化毎)		
トンネル覆工		コンクリート打設前		
		コンクリート打設後		
トンネルインバート工		鉄筋組立て完了時		
鋼板巻立て工	フーチング定着アンカー穿孔工	フーチング定着アンカー穿孔完了時		
	鋼板取付け工、固定アンカー工	鋼板建込み固定アンカー完了時		
	現場溶接工	溶接前		
		溶接完了時		
現場塗装工	塗装前			
	塗装完了時			
ダム工	各工事ごと別途定める			

現行（平成 25 年度）表								新（平成 27 年度）表		理由	
第 3 編土木工事共通編 3-1-1-9 工事完成図書の納品 第 5 項											
表 3-1-2 道路工事完成図等作成の対象工事											
事業区分	工事区分	完成図						工事施設帳票			
		平面図	縦断面図	横断面図	構造図	構造詳細図	用地丈量図				
道路新築・改築	道路改良	—	—	—	—	—	—	●			
	舗装	●	●	—	—	—	—	●			
	橋梁上部工 (鋼・コンクリート)	—	—	—	—	—	—	●			
	橋梁下部工	—	—	—	—	—	—	●			
	トンネル (NATM・矢板)	—	—	—	—	—	—	●			
	地下横断歩道										
	地下駐車場										
シェッド (コンクリート・鋼製)	—	—	—	—	—	—	—	●			
線共同溝	共同溝	●*1	●*1	—	—	—	—	●			
	電線共同溝										
	情報ボックス										
修繕・雪寒	道路維持	—	—	—	—	—	—	●*2			
	道路修繕	●*3	●*3	—	—	—	—	●			
	雪寒	—	—	—	—	—	—	●			
<p>(凡例) ●：道路工事完成図等作成要領に基づく完成図等の作成、電子納品が必須</p> <p>(注意) *1：新土木工事積算体系のレベル 2 工種で「舗装工」を含まない共同溝、電線共同溝、情報ボックス工事については、平面図および縦断面図を作成する必要はない。また、「舗装工」を含む工事であっても、仮復旧及び道路の一部舗装のみを行う工事については平面図および縦断面図を作成する必要はない。</p> <p>*2：除草、除雪および清掃等、道路施設に変更を加えない道路維持工事については工事施設帳票を作成する必要はない。</p> <p>*3：新土木工事積算体系のレベル 2 工種で「舗装工」を含まない道路修繕工事については平面図及び縦断面図を作成する必要はない。また、「舗装工」を含む工事であっても、管内全域で行う簡易な道路修繕工事（小規模な欠損部補修作業等）については平面図及び縦断面図を作成する必要はない。</p>								変更なし			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																				
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-2 材料 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-1 反射体</p> <p style="text-align: center;">（単位：c d / 10.76 lx）</p> <table border="1" data-bbox="344 415 1199 709"> <thead> <tr> <th rowspan="2">観測角 \ 入射角</th> <th colspan="3">白 色</th> <th colspan="3">橙 色</th> </tr> <tr> <th>0°</th> <th>10°</th> <th>20°</th> <th>0°</th> <th>10°</th> <th>20°</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2°</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>18</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>0.5°</td> <td>17</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>1.5°</td> <td>0.55</td> <td>0.44</td> <td>0.33</td> <td>0.34</td> <td>0.28</td> <td>0.20</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 上表は、反射有効径 70mm の場合の値である。</p>	観測角 \ 入射角	白 色			橙 色			0°	10°	20°	0°	10°	20°	0.2°	35	28	21	22	18	13	0.5°	17	4	10	11	9	6	1.5°	0.55	0.44	0.33	0.34	0.28	0.20	<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-2 材料 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-1 反射体</p> <p style="text-align: center;">（単位：c d / 10.76 lx）</p> <table border="1" data-bbox="1495 464 2350 753"> <thead> <tr> <th rowspan="2">観測角 \ 入射角</th> <th colspan="3">白 色</th> <th colspan="3">橙 色</th> </tr> <tr> <th>0°</th> <th>10°</th> <th>20°</th> <th>0°</th> <th>10°</th> <th>20°</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2°</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>18</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>0.5°</td> <td>17</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>1.5°</td> <td>0.55</td> <td>0.44</td> <td>0.33</td> <td>0.34</td> <td>0.28</td> <td>0.20</td> </tr> </tbody> </table> <p>注] 上表は、反射有効径 70mm の場合の値である。</p>	観測角 \ 入射角	白 色			橙 色			0°	10°	20°	0°	10°	20°	0.2°	35	28	21	22	18	13	0.5°	17	4	10	11	9	6	1.5°	0.55	0.44	0.33	0.34	0.28	0.20	<p>表の体裁の修正</p>
観測角 \ 入射角		白 色			橙 色																																																																	
	0°	10°	20°	0°	10°	20°																																																																
0.2°	35	28	21	22	18	13																																																																
0.5°	17	4	10	11	9	6																																																																
1.5°	0.55	0.44	0.33	0.34	0.28	0.20																																																																
観測角 \ 入射角	白 色			橙 色																																																																		
	0°	10°	20°	0°	10°	20°																																																																
0.2°	35	28	21	22	18	13																																																																
0.5°	17	4	10	11	9	6																																																																
1.5°	0.55	0.44	0.33	0.34	0.28	0.20																																																																

現行（平成 25 年度）表				新（平成 27 年度）表			理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-3-2 材料 第 6 項							
表 3-2-2 支柱の諸元							
設置 場所	設 条 件		長 さ (mm)	材 質			
	反 射 体 の 設 置 高 さ (cm)	基 礎 の 種 類		鋼	アルミニウ ム合金	合 成 樹 脂	
				外 径 × 厚 さ (mm) × (mm)	外 径 × 厚 さ (mm) × (mm)	外 径 × 厚 さ (mm) × (mm)	
一般道	90	コンクリート基礎	1,150	34×2.3	45×3	60×4.5	
		土中埋込基礎	1,450	以上	以上	(89)以上	
自動車 専用道	90	コンクリート基礎	1,175	34×1.6	34×2	60×3.5	
	120	コンクリート基礎	1,525	以上	以上	以上	
[注] () 書きは、材料にポリエチレン樹脂を使用する場合。							
				変更なし			

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表					理由					
第 3 編土木工事共通編 3-2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工 第 2 項					第 3 編土木工事共通編 3-2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工 第 2 項					JIS の内容修正による改定					
表 3-2-3 エポキシ樹脂系接着剤の品質規格の標準					表 3-2-3 エポキシ樹脂系接着剤の品質規格の標準										
品質項目		単位	品質規格	試験温度	養生条件	品質項目		単位	品質規格	試験温度	養生条件				
未硬化の接着剤	外観	—	有害と認められる異物の混入がなく、材料分離が生じていないこと	春秋用 20±2℃ 夏用 30±2℃ 冬用 10±2℃	—	未硬化の接着剤	外観	—	有害と認められる異物の混入がなく、材料分離が生じていないこと	春秋用 23±2℃ 夏用 30±2℃ 冬用 10±2℃	—				
	粘度	MPa・s	1×10 ⁴ ～1×10 ⁵	20±2℃			2℃	硬化した接着剤	粘度	MPa・s		1×10 ⁴ ～1×10 ⁵	23±2℃	2℃	
	可使用時間	時間	2 以上						7 日間	可使用時間		時間			2 以上
	だれ最小厚さ	mm	0.3 以上							だれ最小厚さ		mm			0.3 以上
硬化した接着剤	比重	—	1.1～1.7	20±2℃	2℃	硬化した接着剤	比重		—	1.1～1.7	23±2℃	2℃			
	引張強さ	N/mm ²	12.5 以上				7 日間	引張強さ	N/mm ²	12.5 以上					
	圧縮強さ	N/mm ²	50.0 以上					圧縮強さ	N/mm ²	50.0 以上					
	引張せん断接着強さ	N/mm ²	12.5 以上					引張せん断接着強さ	N/mm ²	12.5 以上					
	接着強さ	N/mm ²	6.0 以上					接着強さ	N/mm ²	6.0 以上					
[注 1] 可使用時間は練りませからゲル化開始までの時間の 70%の時間をいうものとする。					[注 1] 可使用時間は練りませからゲル化開始までの時間の 70%の時間をいうものとする。										
[注 2] だれ最小厚さは、鉛直面に厚さ 1mm 塗布された接着剤が、下方にだれた後の最小厚さをいうものとする。					[注 2] だれ最小厚さは、鉛直面に厚さ 1mm 塗布された接着剤が、下方にだれた後の最小厚さをいうものとする。										
[注 3] 接着強さは、せん断試験により求めるものとする。					[注 3] 接着強さは、せん断試験により求めるものとする。										

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-23 現場継手工 第 1 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-4 すべり係数</p> <table border="1" data-bbox="264 371 1279 525"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>すべり係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a) 接触面を塗装しない場合</td> <td>0.40 以上</td> </tr> <tr> <td>b) 接触面に無機ジンクリッチペイントを塗装する場合</td> <td>0.45 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表 3-2-5 無機ジンクリッチペイントを塗装する場合の条件</p> <table border="1" data-bbox="335 659 1205 928"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>条 件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接触面片面あたりの最小乾燥塗膜厚</td> <td>50 μ m 以上</td> </tr> <tr> <td>接触面の合計乾燥塗膜厚</td> <td>100～200 μ m</td> </tr> <tr> <td>乾燥塗膜中の亜鉛含有量</td> <td>80% 以上</td> </tr> <tr> <td>亜鉛末の粒径（50% 平均粒径）</td> <td>10 μ m 程度以上</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	すべり係数	a) 接触面を塗装しない場合	0.40 以上	b) 接触面に無機ジンクリッチペイントを塗装する場合	0.45 以上	項 目	条 件	接触面片面あたりの最小乾燥塗膜厚	50 μ m 以上	接触面の合計乾燥塗膜厚	100～200 μ m	乾燥塗膜中の亜鉛含有量	80% 以上	亜鉛末の粒径（50% 平均粒径）	10 μ m 程度以上	<p>変更なし</p>	
項 目	すべり係数																	
a) 接触面を塗装しない場合	0.40 以上																	
b) 接触面に無機ジンクリッチペイントを塗装する場合	0.45 以上																	
項 目	条 件																	
接触面片面あたりの最小乾燥塗膜厚	50 μ m 以上																	
接触面の合計乾燥塗膜厚	100～200 μ m																	
乾燥塗膜中の亜鉛含有量	80% 以上																	
亜鉛末の粒径（50% 平均粒径）	10 μ m 程度以上																	

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																			
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-23 現場継手工 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-6 設計ボルト軸力 (kN)</p> <table border="1" data-bbox="406 369 1139 705"> <thead> <tr> <th>セット</th> <th>ねじの呼び</th> <th>設計ボルト軸力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">F8T B8T</td> <td>M20</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>F10T</td> <td>M20</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>S10T</td> <td>M22</td> <td>205</td> </tr> <tr> <td>B10T</td> <td>M24</td> <td>238</td> </tr> </tbody> </table>	セット	ねじの呼び	設計ボルト軸力	F8T B8T	M20	133	M22	165	M24	192	F10T	M20	165	S10T	M22	205	B10T	M24	238	<p>変更なし</p>	
セット	ねじの呼び	設計ボルト軸力																			
F8T B8T	M20	133																			
	M22	165																			
	M24	192																			
F10T	M20	165																			
S10T	M22	205																			
B10T	M24	238																			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-23 現場継手工 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-7 常温時（10～30℃）の締付けボルト軸力の平均値</p> <table border="1" data-bbox="365 373 1178 611"> <thead> <tr> <th>セット</th> <th>ねじの呼び</th> <th>1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">S10T</td> <td>M20</td> <td>172～202</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>212～249</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>247～290</td> </tr> </tbody> </table>	セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)	S10T	M20	172～202	M22	212～249	M24	247～290	<p>変更なし</p>	
セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)										
S10T	M20	172～202										
	M22	212～249										
	M24	247～290										

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																				
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-23 現場継手工 第 4 項</p> <p>表 3-2-8 常温時以外（0～10℃、30～60℃）の締付けボルト軸力の平均値</p> <table border="1" data-bbox="365 373 1178 617"> <thead> <tr> <th>セット</th> <th>ねじの呼び</th> <th>1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">S10T</td> <td>M20</td> <td>167～211</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>207～261</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>241～304</td> </tr> </tbody> </table>	セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)	S10T	M20	167～211	M22	207～261	M24	241～304	<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-23 現場継手工 第 4 項</p> <p>表 3-2-8 常温時以外（0～10℃、30～60℃）の締付けボルト軸力の平均値</p> <table border="1" data-bbox="1516 373 2329 617"> <thead> <tr> <th>セット</th> <th>ねじの呼び</th> <th>1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">S10T</td> <td>M20</td> <td>167～211</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>207～261</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>241～304</td> </tr> </tbody> </table>	セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)	S10T	M20	167～211	M22	207～261	M24	241～304	<p>表内の文字位置の修正</p>
セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)																				
S10T	M20	167～211																				
	M22	207～261																				
	M24	241～304																				
セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付けボルト軸力の平均値 (kN)																				
S10T	M20	167～211																				
	M22	207～261																				
	M24	241～304																				

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-23 現場継手工 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-9 耐力点法による締付けボルトの軸力の平均値</p> <table border="1" data-bbox="353 373 1190 600"> <thead> <tr> <th>セット</th> <th>ねじの呼び</th> <th>1 製造ロットのセットの締付け ボルト軸力の平均値 (kN)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">F10T</td> <td style="text-align: center;">M20</td> <td style="text-align: center;">$0.196 \sigma_y \sim 0.221 \sigma_y$</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M22</td> <td style="text-align: center;">$0.242 \sigma_y \sim 0.273 \sigma_y$</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">M24</td> <td style="text-align: center;">$0.282 \sigma_y \sim 0.318 \sigma_y$</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] σ_y : ボルト試験片の耐力 (N/mm²) (JIS Z 2241 の 4 号試験片による)</p>	セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付け ボルト軸力の平均値 (kN)	F10T	M20	$0.196 \sigma_y \sim 0.221 \sigma_y$	M22	$0.242 \sigma_y \sim 0.273 \sigma_y$	M24	$0.282 \sigma_y \sim 0.318 \sigma_y$	<p>変更なし</p>	
セット	ねじの呼び	1 製造ロットのセットの締付け ボルト軸力の平均値 (kN)										
F10T	M20	$0.196 \sigma_y \sim 0.221 \sigma_y$										
	M22	$0.242 \sigma_y \sim 0.273 \sigma_y$										
	M24	$0.282 \sigma_y \sim 0.318 \sigma_y$										

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																																				
第 3 編土木工事共通編 3-2-3-31 現場塗装工 第 9 項	第 3 編土木工事共通編 3-2-3-31 現場塗装工 第 9 項	「鋼道路橋防食便覧（平成 26 年 3 月）」の内容修正による改定																																																																																				
表 3-2-10 塗装禁止条件	表 3-2-10 塗装禁止条件																																																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">塗装の種類</th> <th style="width: 20%;">気温（℃）</th> <th style="width: 20%;">湿度（RH%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント</td> <td>0 以下</td> <td>50 以下</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※</td> <td>10 以下、30 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> <td>0 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> </tbody> </table>	塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）	長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上	無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下	有機ジンクリッチペイント	10 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上	鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">塗装の種類</th> <th style="width: 20%;">気温（℃）</th> <th style="width: 20%;">湿度（RH%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント</td> <td>0 以下</td> <td>50 以下</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※</td> <td>10 以下、30 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> <td>0 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> </tbody> </table>	塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）	長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上	無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下	有機ジンクリッチペイント	5 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	5 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上	鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上	
塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）																																																																																				
長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下																																																																																				
有機ジンクリッチペイント	10 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上																																																																																				
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上																																																																																				
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上																																																																																				
鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上																																																																																				
塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）																																																																																				
長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下																																																																																				
有機ジンクリッチペイント	5 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上																																																																																				
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上																																																																																				
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	5 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上																																																																																				
鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上																																																																																				

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表			理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-3-32 かごマット工 第 3 項					
表 3-2-11 要求性能の確認方法					
項目	要求性能	確認方法			基準値
		試験方法	試験条件		
線材に要求される性能	母材の健全性	母材が健全であること	JIS H 0401 の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	メッキを剥いだ状態での母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付いていないこと
	強度	洗掘時の破断抵抗及び洗掘に追従する屈とう性を有する鉄線籠本体の一部として機能するために必要な強度を有すること	引張試験 (JIS G 3547 に準拠)	—	引張強さ 290N/mm ² 以上
	耐久性	淡水中での耐用年数 30 年程度を確保すること	腐食促進試験 (JIS G 0594 に準拠)	塩素イオン濃度 0ppm 試験時間 1,000 時間	メッキ残存量 30g/m ² 以上
			線材摩耗試験	回転数 20,000 回転	
	均質性	性能を担保する品質の均質性を確保していること	鉄線籠型基準「8. 線材の品質管理」に基づくこと		
環境適合性	周辺環境に影響を与える有害成分を溶出しないこと	鉄線籠型基準「1. 適用河川」に基づくこと			
上記性能に加えて蓋材に要求される性能	摩擦抵抗（短期性能型）	作業中の安全のために必要な滑りにくさを有すること	面的摩擦試験 または 線的摩擦試験	—	摩擦係数 0.90 以上
	摩擦抵抗（長期性能型）	供用後における水辺の安全な利用のために必要な滑りにくさを有すること	線材摩耗試験の線的摩擦試験 または 面材摩耗試験の面的摩擦試験	[線材摩耗試験の場合] 回転数 2,500 回転 [面材摩耗試験の場合] 回転数 100 回転	摩擦係数 0.90 以上 (初期摩耗後)
<p>[注 1] 表 3-2-11 の確認方法に基づく公的機関による性能確認については、1 回の実施でよいものとし、その後は、均質性の確保の観点から、鉄線籠型基準「8. 線材の品質管理」に基づき、定期的に線材の品質管理試験（表 3-2-13）を行うものとする。</p> <p>[注 2] メッキ鉄線以外の線材についても、鉄線籠型基準「7. 線材に要求される性能」に基づく要求性能を満足することを確認した公的試験機関による審査証明を事前に監督職員に提出し、確認を受けなければならない。</p>					
変更なし					

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-32 かごマット工 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-12 連結コイル線</p> <table border="1" data-bbox="210 373 1291 592"> <thead> <tr> <th>線径</th> <th>コイル径</th> <th>連結支点の 間隔</th> <th>コイル長</th> <th> コイル間隔  </th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5mm</td> <td>50mm 以下</td> <td>80mm 以下</td> <td>(高さ方向 30cm) (その他 50cm 以上) 50cm 以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] コイル長の上段：() 書きは、かごの厚さ 30cm 規格の場合</p>	線径	コイル径	連結支点の 間隔	コイル長	コイル間隔 	5mm	50mm 以下	80mm 以下	(高さ方向 30cm) (その他 50cm 以上) 50cm 以上		<p>変更なし</p>	
線径	コイル径	連結支点の 間隔	コイル長	コイル間隔 								
5mm	50mm 以下	80mm 以下	(高さ方向 30cm) (その他 50cm 以上) 50cm 以上									

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表					理由	
第 3 編土木工事共通編 3-2-3-32 かごマット工 第 6 項											
表 3-2-13 線材の品質管理試験の内容											
項目 目試験箇所	試験項目	基準値	試験方法	試験の頻度	変更なし						
工場	線径	$\left[\begin{array}{l} 3.2 \pm 0.09\text{mm} \\ 4.0 \pm 0.10\text{mm} \\ 5.0 \pm 0.12\text{mm} \\ 6.0 \pm 0.12\text{mm} \end{array} \right]$	JISG3547 準拠	5 巻線 ^{※1} に 1 回							
	引張強さ	290N/mm ² 以上	JISG3547 準拠	5 巻線に 1 回							
	ねじり特性	JISG3547 の 4.3	JISG3547 準拠	5 巻線に 1 回							
	巻付性	線径の 1.5 倍の円筒に 6 回以上巻き付け著しい亀裂及びはく離を生じない	JISG3547 準拠	5 巻線に 1 回							
	メッキ成分	※ 2	原子吸光分析法、または ICP 発光分析法	5 巻線に 1 回							
	メッキ付着量	※ 2	JISH0401 準拠	5 線に 1 回							
公的試験機関	線径	$\left[\begin{array}{l} 3.2 \pm 0.09\text{mm} \\ 4.0 \pm 0.10\text{mm} \\ 5.0 \pm 0.12\text{mm} \\ 6.0 \pm 0.12\text{mm} \end{array} \right]$	JISG3547 準拠	200 巻線に 1 回							
	引張強さ	290N/mm ² 以上	JISG3547 準拠	200 巻線に 1 回							
	母材の健全性	母材に傷が付いていないこと	JISH0401 の間接法で使用する試験液によるメッキ溶脱後の母材鉄線の写真撮影	200 巻線に 1 回							
	メッキ成分	※ 2	原子吸光分析法、または ICP 発光分析法	200 巻線に 1 回							
	摩擦抵抗 (蓋材のみ)	短期性能型 摩擦係数 0.90 以上		面的摩擦試験、または 線的摩擦試験							200 巻線に 1 回
		長期性能型 摩擦係数 0.90 以上 (初期摩耗後)		線材摩耗試験後の 線的摩擦試験 または 面材摩耗試験後の 面的摩擦試験							200 巻線に 1 回
<p>[注 1] ※ 1 巻線とは、工場における製造単位を言い、約 1 t とする</p> <p>※ 2 メッキ成分及び付着量の基準値は、耐久性に関する性能確認試験及び摩擦抵抗に関する性能確認試験に使用した製品のメッキ成分及び付着量を基に決定する。</p> <p>なお、メッキ鉄線以外の線材については、メッキ成分及びメッキ付着量の試験項目を省略できるものとする。</p> <p>[注 2] 線径の基準値の () 書きは、30cm 規格、[] 書きは、50cm 規格</p> <p>[注 3] メッキ鉄線以外の鉄線についても、鉄線籠型基準に基づく要求性能を満足することを確認した公的試験機関による審査証明にて設定された試験項目、基準値、試験方法、試験の頻度により、品質確認試験を行うものとする。</p>											

現行（平成 25 年度）表				新（平成 27 年度）表		理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-3-3 袋詰玉石工 第 33 項						
表 3-2-14(1) 袋型根固め袋材の要求性能及び確認方法						
場 所	項 目	要 求 性 能	確 認 方 法			
			試 験 方 法		基 準 値	
公 的 試 験 機 関	強 度 (※1)	必要重量の中詰め材 料を充填し直接クレ ーンで吊り上げて も破断しない強度を有 すること。	引張試験 (JIS A 8960 に準拠)	(2 トン型)	(2 重)400N 以上 (1 重)700N 以上	変更なし
				(4 トン型)	(2 重)500N 以上 (1 重)900N 以上	
	耐 候 性	紫外線により劣化し た場合も、必要な強度 を保持すること。 短期性能型： 試験耐候性は求めない。 長期性能型： 耐用年数 30 年程度	耐 候 性 試 験 (長期性能型のみ) (JIS L 0842 オープンフレ ームカーボンアーク灯式耐候性 試験機により紫外線を 7500 時間照射後、JIS A 8960 準拠の引張試験を 実施)	(2 トン型)	(2 重)200N 以上 (1 重)200N 以上	
				(4 トン型)	(2 重)250N 以上 (1 重)250N 以上	
	耐 燃 焼 性	中詰め材料を充填し た状態で網地の燃焼 が広がらないこと。	たき火試験 (参考資料参照)	燃焼部以上に延焼しない こと。		
	環 境 適 合 性	生態系を阻害するよ うな有害物質の溶出 がないこと。	煮沸試験 飼育試験 (参考資料参照)	有害物質が溶出しないこと。		
均 質 性	性能を担保する品質 の均質性を確保しい ること。	材料 20000 袋当たり 1 回の引張試験を実施 (JIS A 8960 に準拠)	「強度」の基準値を満足する こと。			
発 注 期 間	網目・ 網地の 信頼性	中詰め材料の抜け出 しや、網地の破断が促 進することがないこ と。	監督職員による事前 確認	中詰め材料が抜け出さない 網目の寸法で、かつ、網目を 構成する網糸が破断しても 解れが連続的に広がらない 加工がなされていること。		
[注] ※1 表 3-2-14(1)の確認方法のうち、公的機関による性能確認については、均質性の項目を除 き、1 回の実施でよいものとする。						

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																								
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-3-3 袋詰玉石工 第 33 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-14(2) 参考資料</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[たき火試験] 袋型根固め用袋材に中詰め材を充填した後、静置させ上部にたき火用材料を積み上げてライターにて点火する。</p> <table border="1" data-bbox="427 550 1101 688"> <tr> <td>中詰め材割</td> <td>栗石 1 5 0 m m</td> </tr> <tr> <td>点火方法</td> <td>ライター</td> </tr> <tr> <td>たき火用材料</td> <td>野原の草木（枯れ草、枯れ木）</td> </tr> </table> <p>[煮沸試験] 網地を沸水中に浸漬し、下記時間の経過後取り出し網地の質量変化を測定する。</p> <table border="1" data-bbox="421 823 1101 1102"> <tr> <td>浸漬温度</td> <td>9 8 ± 2 °C</td> </tr> <tr> <td>浸漬時間</td> <td>1 2 0 ± 1 0 m i n</td> </tr> <tr> <td>浸漬水</td> <td>蒸留水</td> </tr> <tr> <td>試験体の数</td> <td>5 個</td> </tr> <tr> <td>乾燥温度</td> <td>1 0 5 °C</td> </tr> <tr> <td>抽出条件（質量比）</td> <td>網地：水 = 1 : 5 0 0</td> </tr> </table> <p>[飼育試験] 金魚を入れた水槽に網地を浸漬し、下記期間飼育しその生存状態を確認する。</p> <table border="1" data-bbox="427 1236 1101 1375"> <tr> <td>金魚の飼育時間</td> <td>3 ヶ月</td> </tr> <tr> <td>飼育条件（質量比）</td> <td>網地：水 = 1 : 1 0 0</td> </tr> <tr> <td>金魚の匹数</td> <td>3 匹</td> </tr> </table> </div>	中詰め材割	栗石 1 5 0 m m	点火方法	ライター	たき火用材料	野原の草木（枯れ草、枯れ木）	浸漬温度	9 8 ± 2 °C	浸漬時間	1 2 0 ± 1 0 m i n	浸漬水	蒸留水	試験体の数	5 個	乾燥温度	1 0 5 °C	抽出条件（質量比）	網地：水 = 1 : 5 0 0	金魚の飼育時間	3 ヶ月	飼育条件（質量比）	網地：水 = 1 : 1 0 0	金魚の匹数	3 匹	<p>変更なし</p>	
中詰め材割	栗石 1 5 0 m m																									
点火方法	ライター																									
たき火用材料	野原の草木（枯れ草、枯れ木）																									
浸漬温度	9 8 ± 2 °C																									
浸漬時間	1 2 0 ± 1 0 m i n																									
浸漬水	蒸留水																									
試験体の数	5 個																									
乾燥温度	1 0 5 °C																									
抽出条件（質量比）	網地：水 = 1 : 5 0 0																									
金魚の飼育時間	3 ヶ月																									
飼育条件（質量比）	網地：水 = 1 : 1 0 0																									
金魚の匹数	3 匹																									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-4-4 既製杭工 第 21 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-15 現場円周溶接部の目違いの許容値</p> <table border="1" data-bbox="273 464 1270 806"> <thead> <tr> <th>外 径</th> <th>許容量</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>700mm 未満</td> <td>2mm 以下</td> <td>上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。</td> </tr> <tr> <td>700mm 以上 1016mm 以下</td> <td>3mm 以下</td> <td>上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。</td> </tr> <tr> <td>1016mm を超え 1524mm 以下</td> <td>4mm 以下</td> <td>上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。</td> </tr> </tbody> </table>	外 径	許容量	摘 要	700mm 未満	2mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	700mm 以上 1016mm 以下	3mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	1016mm を超え 1524mm 以下	4mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	<p>変更なし</p>	
外 径	許容量	摘 要												
700mm 未満	2mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。												
700mm 以上 1016mm 以下	3mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。												
1016mm を超え 1524mm 以下	4mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。												

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-4-9 鋼管矢板基礎工 第 11 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-16 現場円周溶接部の目違いの許容値</p> <table border="1" data-bbox="276 373 1270 716"> <thead> <tr> <th>外 径</th> <th>許容量</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>700mm 未満</td> <td>2mm 以下</td> <td>上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。</td> </tr> <tr> <td>700mm 以上 1016mm 以下</td> <td>3mm 以下</td> <td>上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。</td> </tr> <tr> <td>1016mm を超え 1524mm 以下</td> <td>4mm 以下</td> <td>上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。</td> </tr> </tbody> </table>	外 径	許容量	摘 要	700mm 未満	2mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	700mm 以上 1016mm 以下	3mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	1016mm を超え 1524mm 以下	4mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	<p>変更なし</p>	
外 径	許容量	摘 要												
700mm 未満	2mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。												
700mm 以上 1016mm 以下	3mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。												
1016mm を超え 1524mm 以下	4mm 以下	上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。												

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 7 項				
表 3-2-17 下層路盤の品質規格				
工 法	種 別	試験項目	試験方法	規格値
粒状路盤	クラッシュラン 砂利、砂 再生クラッシュラン等	PI	舗装調査・試験法 便覧 F005	※6 以下
		修正 CBR(%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	※20 以上 [30 以上]
	クラッシュラン鉄鋼 スラグ (高炉徐冷スラグ)	修正 CBR(%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	30 以上
		呈色判定試験	舗装調査・試験法 便覧 E002	呈色なし
	クラッシュラン鉄鋼 スラグ (製鋼スラグ)	修正 CBR(%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	30 以上
		水浸膨張比 (%)	舗装調査・試験法 便覧 E004	1.5 以下
		エージング期間	—	6 ヶ月以上
変更なし				
<p>[注 1] 特に指示されない限り最大乾燥密度の 95%に相当する CBR を修正 CBR とする。</p> <p>[注 2] 削除</p> <p>[注 2] アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が以下に示す数値より小さい場合は、修正 CBR の規格値の値は[]内の数値を適用する。なお 40℃で CBR 試験を行う場合は 20%以上としてよい。</p> <p style="margin-left: 20px;">北海道地方—————20cm</p> <p style="margin-left: 20px;">東北地方—————30cm</p> <p style="margin-left: 20px;">その他の地域—————40cm</p> <p>[注 3] 再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すりへり減量が 50% 以下とするものとする。</p> <p>[注 4] エージング期間は、製鋼スラグを用いた鉄鋼スラグの通常エージングに適用する。ただし、電気炉スラグを 3 ヶ月以上通常エージングした後の水浸膨張比が 0.6%以下となる場合及び製鋼スラグを促進エージングした場合は、施工実績などを参考にし、膨張性が安定したことを十分確認してエージング期間を短縮することができる。</p>				

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																		
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 8 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-18 上層路盤の品質規格</p> <table border="1" data-bbox="305 373 1240 919"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>試験項目</th> <th>試験方法</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">粒 度 調 整 砕 石</td> <td>PI</td> <td>舗装調査・試験 法便覧 F005</td> <td>4 以下</td> </tr> <tr> <td>修正 CBR (%)</td> <td>舗装調査・試験 法便覧 E001</td> <td>80 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">再 生 粒 度 調 整 砕 石</td> <td>PI</td> <td>舗装調査・試験 法便覧 F005</td> <td>4 以下 安定性損失 率 20%以下</td> </tr> <tr> <td>修正 CBR (%)</td> <td>舗装調査・試験 法便覧 E001</td> <td>80 以上 [90 以上]</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 粒度調整路盤に用いる破砕分級されたセメントコンクリート再生骨材は、すりへり減量が 50%以下とするものとする。</p> <p>[注 2] アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生粒度調整砕石の修正 CBR は、[]内の数値を適用する。ただし、40℃で CBR 試験を行った場合は 80 以上とする。</p>	種 別	試験項目	試験方法	規格値	粒 度 調 整 砕 石	PI	舗装調査・試験 法便覧 F005	4 以下	修正 CBR (%)	舗装調査・試験 法便覧 E001	80 以上	再 生 粒 度 調 整 砕 石	PI	舗装調査・試験 法便覧 F005	4 以下 安定性損失 率 20%以下	修正 CBR (%)	舗装調査・試験 法便覧 E001	80 以上 [90 以上]	<p>変更なし</p>	
種 別	試験項目	試験方法	規格値																	
粒 度 調 整 砕 石	PI	舗装調査・試験 法便覧 F005	4 以下																	
	修正 CBR (%)	舗装調査・試験 法便覧 E001	80 以上																	
再 生 粒 度 調 整 砕 石	PI	舗装調査・試験 法便覧 F005	4 以下 安定性損失 率 20%以下																	
	修正 CBR (%)	舗装調査・試験 法便覧 E001	80 以上 [90 以上]																	

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																				
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 8 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-19 上層路盤の品質規格</p> <table border="1" data-bbox="278 369 1264 886"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>試験項目</th> <th>試験方法</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">粒度調整鉄鋼スラグ</td> <td>呈色判定試験</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E002</td> <td>呈色なし</td> </tr> <tr> <td>水浸膨張比(%)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E004</td> <td>1.5 以下</td> </tr> <tr> <td>エージング期間</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>6 ヶ月以上</td> </tr> <tr> <td>修正 CBR (%)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E001</td> <td>80 以上</td> </tr> <tr> <td>単位容積質量 (kg/l)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 A023</td> <td>1.5 以上</td> </tr> </tbody> </table>	種 別	試験項目	試験方法	規格値	粒度調整鉄鋼スラグ	呈色判定試験	舗装調査・試験法 便覧 E002	呈色なし	水浸膨張比(%)	舗装調査・試験法 便覧 E004	1.5 以下	エージング期間	—	6 ヶ月以上	修正 CBR (%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	80 以上	単位容積質量 (kg/l)	舗装調査・試験法 便覧 A023	1.5 以上	<p>変更なし</p>	
種 別	試験項目	試験方法	規格値																			
粒度調整鉄鋼スラグ	呈色判定試験	舗装調査・試験法 便覧 E002	呈色なし																			
	水浸膨張比(%)	舗装調査・試験法 便覧 E004	1.5 以下																			
	エージング期間	—	6 ヶ月以上																			
	修正 CBR (%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	80 以上																			
	単位容積質量 (kg/l)	舗装調査・試験法 便覧 A023	1.5 以上																			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																							
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 8 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-20 上層路盤の品質規格</p> <table border="1" data-bbox="278 369 1267 1024"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>試験項目</th> <th>試験方法</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">水硬性粒度調整 鉄鋼スラグ</td> <td>呈色判定試験</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E002</td> <td>呈色なし</td> </tr> <tr> <td>水浸膨張比(%)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E004</td> <td>1.5 以下</td> </tr> <tr> <td>エージング期間</td> <td>—</td> <td>6 ヶ月以上</td> </tr> <tr> <td>一軸圧縮強さ [14 日] (MPa)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E013</td> <td>1.2 以上</td> </tr> <tr> <td>修正 CBR (%)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 E001</td> <td>80 以上</td> </tr> <tr> <td>単位容積質量 (kg/l)</td> <td>舗装調査・試験法 便覧 A023</td> <td>1.5 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 表 3-2-18、表 3-2-19 に示す鉄鋼スラグ路盤材の品質規格は、修正 CBR、一軸圧縮強さ及び単位容積質量については高炉徐冷スラグ及び製鋼スラグ、呈色判定については高炉スラグ、水浸膨張比及びエージング期間については製鋼スラグにそれぞれ適用する。ただし、電気炉スラグを3ヶ月以上通常エージングした後の水浸膨張比が 0.6%以下となる場合及び製鋼スラグを促進エージングした場合は、施工実績などを参考にし、膨張性が安定したことを十分確認してエージング期間を短縮することができる。</p>	種 別	試験項目	試験方法	規格値	水硬性粒度調整 鉄鋼スラグ	呈色判定試験	舗装調査・試験法 便覧 E002	呈色なし	水浸膨張比(%)	舗装調査・試験法 便覧 E004	1.5 以下	エージング期間	—	6 ヶ月以上	一軸圧縮強さ [14 日] (MPa)	舗装調査・試験法 便覧 E013	1.2 以上	修正 CBR (%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	80 以上	単位容積質量 (kg/l)	舗装調査・試験法 便覧 A023	1.5 以上	<p>変更なし</p>	
種 別	試験項目	試験方法	規格値																						
水硬性粒度調整 鉄鋼スラグ	呈色判定試験	舗装調査・試験法 便覧 E002	呈色なし																						
	水浸膨張比(%)	舗装調査・試験法 便覧 E004	1.5 以下																						
	エージング期間	—	6 ヶ月以上																						
	一軸圧縮強さ [14 日] (MPa)	舗装調査・試験法 便覧 E013	1.2 以上																						
	修正 CBR (%)	舗装調査・試験法 便覧 E001	80 以上																						
	単位容積質量 (kg/l)	舗装調査・試験法 便覧 A023	1.5 以上																						

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表										理 由	
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 8 項													
表 3-2-21 粒度調整路盤材の粒度範囲													
ふるい目 粒度範囲 呼び名		通過質量百分率(%)											
		53mm	37.5mm	31.5mm	26.5mm	19mm	13.2mm	4.75mm	2.36mm	425 μ m	75 μ m		
粒度調整 碎石	M-40	40~0	100	95~100	—	—	60~90	—	30~65	20~50	10~30	2~10	
	M-30	30~0	—	100	95~100	—	60~90	—	30~65	20~50	10~30	2~10	
	M-25	25~0	—	—	100	95~100	—	55~85	30~65	20~50	10~30	2~10	
変更なし													

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表				理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 10 項						
表 3-2-22 鉄鋼スラグの品質規格						
材 料 名	呼び名	表乾密度 (g/cm ³)	吸水率 (%)	すりへり減 量 (%)	水 浸 膨張比 (%)	
クラッシュラン 製鋼スラグ	C S S	—	—	50 以下	2.0 以下	
単粒度製鋼スラグ	S S	2.45 以上	3.0 以下	30 以下	2.0 以下	
<p>[注] 水浸膨張比の規格は、3 ヶ月以上通常エージングした後の製鋼スラグに適用する。また、試験方法は舗装調査・試験法便覧 B014 を参照する。</p>						
				変更なし		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由											
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 10 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-23 アスファルトコンクリート再生骨材の品質</p> <table border="1" data-bbox="296 373 1270 556"> <tr> <td>旧アスファルトの含有量</td> <td style="text-align: center;">%</td> <td>3.8 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">旧アスファルトの性状</td> <td>針入度 1/10mm</td> <td>20 以上</td> </tr> <tr> <td>圧裂係数 MPa/mm</td> <td>1.70 以下</td> </tr> <tr> <td>骨材の微粒分量</td> <td style="text-align: center;">%</td> <td>5 以下</td> </tr> </table> <p>[注 1] アスファルトコンクリート再生骨材中に含まれるアスファルトを旧アスファルト、新たに用いる舗装用石油アスファルトを新アスファルトと称する。</p> <p>[注 2] アスファルトコンクリート再生骨材は、通常 20～13 mm、13～5 mm、5～0 mm の 3 種類の粒度や 20～13 mm、13～0 mm の 2 種類の粒度にふるい分けられるが、本表に示される規格は、13～0 mm の粒度区分のものに適用する。</p> <p>[注 3] アスファルトコンクリート再生骨材の 13 mm 以下が 2 種類にふるい分けられている場合には、再生骨材の製造時における各粒度区分の比率に応じて合成した試料で試験するか、別々に試験して合成比率に応じて計算により 13～0 mm 相当分を求めてもよい。また、13～0 mm あるいは 13～5 mm、5～0 mm 以外でふるい分けられている場合には、ふるい分け前の全試料から 13～0 mm をふるい取ってこれを対象に試験を行う。</p> <p>[注 4] アスファルトコンクリート再生骨材中の旧アスファルト含有量及び 75 μm を通過する量は、アスファルトコンクリート再生骨材の乾燥質量に対する百分率で表す。</p> <p>[注 5] 骨材の微粒分量試験は JIS A 1103（骨材の微粒分量試験方法）により求める。</p> <p>[注 6] アスファルト混合物層の切削材は、その品質が本表に適合するものであれば再生加熱アスファルト混合物に利用できる。ただし、切削材は粒度がばらつきやすいので他のアスファルトコンクリート発生材を調整して使用することが望ましい。</p> <p>[注 7] 旧アスファルトの性状は、針入度または、圧裂係数のどちらかが基準を満足すればよい。</p>	旧アスファルトの含有量	%	3.8 以上	旧アスファルトの性状	針入度 1/10mm	20 以上	圧裂係数 MPa/mm	1.70 以下	骨材の微粒分量	%	5 以下	<p>変更なし</p>	
旧アスファルトの含有量	%	3.8 以上											
旧アスファルトの性状	針入度 1/10mm	20 以上											
	圧裂係数 MPa/mm	1.70 以下											
骨材の微粒分量	%	5 以下											

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表										理 由	
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 20 項													
表 3-2-24 マーシャル安定度試験基準値													
混 合 物 の 種 類	① 粗粒度ア スファル ト混合物	② 密粒度 アスフ アルト 混合物		③ 細粒度ア スファル ト混合物	④ 密粒度ギャ ップアス ファル ト混合物	⑤ 密粒度 アスフ アルト 混合物		⑥ 細粒度ギ ャップア スファル ト混合物	⑦ 細粒度ア スファル ト混 合物	⑧ 密粒度ギ ャップア スファル ト混 合物	⑨ 開粒度ア スファル ト混合物		
		20	20	13	13	13	(20F)	(13F)	(13F)	(13F)	(13F)	13	
突固め 回 数	1,000≦T	75				50				75			
	T<1,000	50				50				50			
空隙率 (%)	3~7	3~6		3~7		3~5		2~5	3~5		-		
飽和度 (%)	65~85	70~85		65~85		75~85		75~90	75~85		-		
安定度 kN	4.90 以上	4.90 (7.35) 以上	4.90 以上				3.43 以上	4.90 以上		3.43 以上			
フ ロー 値 (1/100cm)	20~40							20~80	20~40				
<p>[注 1] T : 舗装計画交通量 (台/日・方向)</p> <p>[注 2] 積雪寒冷地域の場合や、1,000≦T<3,000であっても流動によるわだち掘れの恐れが少ないところでは突き固め回数を50回とする。</p> <p>[注 3] () 内は、1,000≦Tで突固め回数を75回とする場合の基準値を示す。</p> <p>[注 4] 水の影響を受けやすいと思われる混合物またはそのような箇所に舗設される混合物は、次式で求めた残留安定度75%以上が望ましい。</p> <p style="text-align: center;">残留安定度 (%) = (60℃、48 時間水浸後の安定度 (kN) / 安定度 (kN)) × 100</p> <p>[注 5] 開粒度アスファルト混合物を、歩道の透水性舗装の表層として用いる場合、一般に突固め回数を 50 回とする。</p>												変更なし	

現行（平成 25 年度）表														新（平成 27 年度）表														理 由		
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-3 アスファルト舗装の材料 第 20 項																														
表 3-2-25 アスファルト混合物の種類と粒度範囲																														
混合物の種類	①	②		③	④	⑤		⑥	⑦	⑧	⑨	⑩																		
	粗粒度 アスファルト 混合物 (20)	密粒度 アスファルト 混合物 (20)	(13)	細粒度 アスファルト 混合物 (13)	密粒度 ギャップ アスファルト 混合物 (13)	密粒度 アスファルト 混合物 (20F)	(13F)	細粒度 ギャップ アスファルト 混合物 (13F)	細粒度 アスファルト 混合物 (13F)	密粒度 ギャップ アスファルト 混合物 (13F)	開粒度 アスファルト 混合物 (13)	ポーラス アスファルト 混合物 (20)	(13)																	
仕上がり厚 cm	4~6	4~6	3~5	3~5	3~5	4~6	3~5	3~5	3~4	3~5	3~4	4~5	4~5																	
最大粒径	20	20	13	13	13	20	13	13	13	13	13	20	13																	
通過質量百分率 (%)	26.5mm	100	100			100						100																		
	19mm	95~100	95~100	100	100	100	95~100	100	100	100	100	100	95~100	100																
	13.2mm	70~90	75~90	95~100	95~100	95~100	75~95	95~100	95~100	95~100	95~100	95~100	64~84	90~100																
	4.75mm	35~55	45~65	55~70	65~80	35~55	52~72	60~80	75~90	45~65	23~45	10~31	11~35																	
	2.36mm	20~35	35~50	50~65	30~45	40~60	45~65	65~80	30~45	15~30	10~20																			
	600μm	11~23	18~30	25~40	20~40	25~45	40~60	40~65	25~40	8~20																				
	300μm	5~16	10~21	12~27	15~30	16~33	20~45	20~45	20~40	4~15																				
150μm	4~12	6~16	8~20	5~15	8~21	10~25	15~30	10~25	4~10																					
75μm	2~7	4~8	4~10	4~10	6~11	8~13	8~15	8~12	2~7	3~7																				
アスファルト量%	4.5~6	5~7	6~8	4.5~6.5	6~8	6~8	7.5~9.5	5.5~7.5	3.5~5.5	4~6																				
変更なし																														

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-7 アスファルト舗装工 第 3 項				
表 3-2-26 安定処理路盤の品質規格				
下層路盤				
工 法	機 種	試験項目	試験方法	規格値
セメント 安定処理	—	一軸圧縮強さ [7 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	0.98MPa
石 灰 安定処理	—	一軸圧縮強さ [10 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	0.7MPa
上層路盤				
工 法	機 種	試験項目	試験方法	規格値
セメント 安定処理	—	一軸圧縮強さ [7 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	2.9MPa
石 灰 安定処理	—	一軸圧縮強さ [10 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	0.98MPa
		変更なし		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由								
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-7 アスファルト舗装工 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-27 マーシャル安定度試験基準値</p> <table border="1" data-bbox="320 373 1222 558"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43 以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10～40</td> </tr> <tr> <td>空げき率 (%)</td> <td>3～12</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 25mm を超える骨材部分は、同重量だけ 25mm～13mm で置き換えてマーシャル安定度試験を行う。</p>	項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43 以上	フロー値 (1/100cm)	10～40	空げき率 (%)	3～12	<p>変更なし</p>	
項 目	基 準 値									
安定度 kN	3.43 以上									
フロー値 (1/100cm)	10～40									
空げき率 (%)	3～12									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																																								
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-9 排水性舗装工 第 3 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-28 ポリマー改質アスファルト H 型の標準的性状</p> <table border="1" data-bbox="338 369 1202 1201"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">種類</th> <th colspan="2">H 型</th> </tr> <tr> <th colspan="2">付加記号</th> <th></th> <th>H 型-F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軟化点</td> <td colspan="2">℃</td> <td colspan="2">80.0 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">伸度</td> <td>(7℃)</td> <td>cm</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(15℃)</td> <td>cm</td> <td>50 以上</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>タフネス (25℃)</td> <td colspan="2">N・m</td> <td>20 以上</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>テナシティ (25℃)</td> <td colspan="2">N・m</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>粗骨材の剥離面積率</td> <td colspan="2">%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>フラース脆化点</td> <td colspan="2">℃</td> <td>—</td> <td>-12 以下</td> </tr> <tr> <td>曲げ仕事量 (-20℃)</td> <td colspan="2">kPa</td> <td>—</td> <td>400 以上</td> </tr> <tr> <td>曲げスティフネス (-20℃)</td> <td colspan="2">MPa</td> <td>—</td> <td>100 以下</td> </tr> <tr> <td>針入度 (25℃)</td> <td colspan="2">1/10 mm</td> <td colspan="2">40 以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td colspan="2">%</td> <td colspan="2">0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の針入度残留率</td> <td colspan="2">%</td> <td colspan="2">65 以上</td> </tr> <tr> <td>引火点</td> <td colspan="2">℃</td> <td colspan="2">260 以上</td> </tr> <tr> <td>密度 (15℃)</td> <td colspan="2">g/c m³</td> <td colspan="2">試験表に付記</td> </tr> <tr> <td>最適混合温度</td> <td colspan="2">℃</td> <td colspan="2">試験表に付記</td> </tr> <tr> <td>最適締固め温度</td> <td colspan="2">℃</td> <td colspan="2">試験表に付記</td> </tr> </tbody> </table>	項目	種類		H 型		付加記号			H 型-F	軟化点	℃		80.0 以上		伸度	(7℃)	cm	—	—	(15℃)	cm	50 以上	—	タフネス (25℃)	N・m		20 以上	—	テナシティ (25℃)	N・m		—	—	粗骨材の剥離面積率	%		—	—	フラース脆化点	℃		—	-12 以下	曲げ仕事量 (-20℃)	kPa		—	400 以上	曲げスティフネス (-20℃)	MPa		—	100 以下	針入度 (25℃)	1/10 mm		40 以上		薄膜加熱質量変化率	%		0.6 以下		薄膜加熱後の針入度残留率	%		65 以上		引火点	℃		260 以上		密度 (15℃)	g/c m ³		試験表に付記		最適混合温度	℃		試験表に付記		最適締固め温度	℃		試験表に付記		<p>変更なし</p>	
項目		種類		H 型																																																																																						
	付加記号			H 型-F																																																																																						
軟化点	℃		80.0 以上																																																																																							
伸度	(7℃)	cm	—	—																																																																																						
	(15℃)	cm	50 以上	—																																																																																						
タフネス (25℃)	N・m		20 以上	—																																																																																						
テナシティ (25℃)	N・m		—	—																																																																																						
粗骨材の剥離面積率	%		—	—																																																																																						
フラース脆化点	℃		—	-12 以下																																																																																						
曲げ仕事量 (-20℃)	kPa		—	400 以上																																																																																						
曲げスティフネス (-20℃)	MPa		—	100 以下																																																																																						
針入度 (25℃)	1/10 mm		40 以上																																																																																							
薄膜加熱質量変化率	%		0.6 以下																																																																																							
薄膜加熱後の針入度残留率	%		65 以上																																																																																							
引火点	℃		260 以上																																																																																							
密度 (15℃)	g/c m ³		試験表に付記																																																																																							
最適混合温度	℃		試験表に付記																																																																																							
最適締固め温度	℃		試験表に付記																																																																																							

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																							
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-9 排水性舗装工 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-29 アスファルト乳剤の標準的性状</p> <table border="1" data-bbox="293 415 1249 1293"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="293 415 893 556">種類及び記号</th> <th data-bbox="893 415 1249 556">PKR-T</th> </tr> <tr> <th data-bbox="293 556 379 598">項 目</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="293 598 893 640">エングラー度(25℃)</td> <td colspan="2" data-bbox="893 598 1249 640">1～10</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 640 893 682">セイボルトフロール秒(50℃)</td> <td data-bbox="893 640 952 682">s</td> <td data-bbox="952 640 1249 682">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 682 893 724">ふるい残留分(1.18 mm)</td> <td data-bbox="893 682 952 724">%</td> <td data-bbox="952 682 1249 724">0.3 以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 724 893 766">付着度</td> <td colspan="2" data-bbox="893 724 1249 766">2/3 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 766 893 808">粒子の電荷</td> <td colspan="2" data-bbox="893 766 1249 808">陽(+)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 808 893 850">留出油分(360℃までの)</td> <td colspan="2" data-bbox="893 808 1249 850">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 850 893 892">蒸発残留分</td> <td data-bbox="893 850 952 892">%</td> <td data-bbox="952 850 1249 892">50 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 892 379 1155" rowspan="5">蒸発残留物</td> <td colspan="2" data-bbox="379 892 1249 934">針入度(25℃)1/10 mm</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="379 934 1249 976">60 を超え 150 以下</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="379 976 1249 1018">軟化点 °C</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="379 1018 1249 1060">42.0 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 1060 626 1155" rowspan="2">タフネス</td> <td data-bbox="626 1060 893 1102">(25℃)N・m</td> <td data-bbox="893 1060 1249 1102">3.0 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="626 1102 893 1144">(15℃)N・m</td> <td data-bbox="893 1102 1249 1144">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 1155 626 1197" rowspan="2">テナシティ</td> <td data-bbox="626 1155 893 1197">(25℃)N・m</td> <td data-bbox="893 1155 1249 1197">1.5 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="626 1197 893 1239">(15℃)N・m</td> <td data-bbox="893 1197 1249 1239">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 1239 893 1281">貯蔵安定度(24hr)質量</td> <td data-bbox="893 1239 952 1281">%</td> <td data-bbox="952 1239 1249 1281">1 以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 1281 893 1323">浸透性</td> <td data-bbox="893 1281 952 1323">s</td> <td data-bbox="952 1281 1249 1323">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="293 1323 893 1365">凍結安定度(-5℃)</td> <td colspan="2" data-bbox="893 1323 1249 1365">—</td> </tr> </tbody> </table>	種類及び記号		PKR-T	項 目			エングラー度(25℃)	1～10		セイボルトフロール秒(50℃)	s	—	ふるい残留分(1.18 mm)	%	0.3 以下	付着度	2/3 以上		粒子の電荷	陽(+)		留出油分(360℃までの)	—		蒸発残留分	%	50 以上	蒸発残留物	針入度(25℃)1/10 mm		60 を超え 150 以下		軟化点 °C		42.0 以上		タフネス	(25℃)N・m	3.0 以上	(15℃)N・m	—	テナシティ	(25℃)N・m	1.5 以上	(15℃)N・m	—	貯蔵安定度(24hr)質量	%	1 以下	浸透性	s	—	凍結安定度(-5℃)	—		<p>変更なし</p>	
種類及び記号		PKR-T																																																							
項 目																																																									
エングラー度(25℃)	1～10																																																								
セイボルトフロール秒(50℃)	s	—																																																							
ふるい残留分(1.18 mm)	%	0.3 以下																																																							
付着度	2/3 以上																																																								
粒子の電荷	陽(+)																																																								
留出油分(360℃までの)	—																																																								
蒸発残留分	%	50 以上																																																							
蒸発残留物	針入度(25℃)1/10 mm																																																								
	60 を超え 150 以下																																																								
	軟化点 °C																																																								
	42.0 以上																																																								
	タフネス	(25℃)N・m	3.0 以上																																																						
(15℃)N・m		—																																																							
テナシティ	(25℃)N・m	1.5 以上																																																							
	(15℃)N・m	—																																																							
貯蔵安定度(24hr)質量	%	1 以下																																																							
浸透性	s	—																																																							
凍結安定度(-5℃)	—																																																								

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-9 排水性舗装工 第 5 項</p> <p>表 3-2-30 ポーラスアスファルト混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="323 371 1222 806"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.5mm</td> <td>—</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0mm</td> <td>100</td> <td>95～100</td> </tr> <tr> <td>13.2mm</td> <td>90～100</td> <td>64～84</td> </tr> <tr> <td>4.75mm</td> <td>11～35</td> <td>10～31</td> </tr> <tr> <td>2.36mm</td> <td>10～20</td> <td>10～20</td> </tr> <tr> <td>75μm</td> <td>3～7</td> <td>3～7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4～6</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 上表により難しい場合は監督職員と協議しなければならない。</p>	ふるい目 呼び寸法	粒 度 範 囲		最大粒径(13)	最大粒径(20)	26.5mm	—	100	19.0mm	100	95～100	13.2mm	90～100	64～84	4.75mm	11～35	10～31	2.36mm	10～20	10～20	75μm	3～7	3～7	アスファルト量	4～6		<p>変更なし</p>	
ふるい目 呼び寸法		粒 度 範 囲																										
	最大粒径(13)	最大粒径(20)																										
26.5mm	—	100																										
19.0mm	100	95～100																										
13.2mm	90～100	64～84																										
4.75mm	11～35	10～31																										
2.36mm	10～20	10～20																										
75μm	3～7	3～7																										
アスファルト量	4～6																											

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-9 排水性舗装工 第 5 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-31 ポーラスアスファルト混合物の目標値</p> <table border="1" data-bbox="320 369 1219 646"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>目 標 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空隙率 %</td> <td>20 程度</td> </tr> <tr> <td>透水係数 cm/sec</td> <td>10⁻²以上</td> </tr> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43 以上</td> </tr> <tr> <td>動的安定度 (DS) 回/mm</td> <td>一般部 4,000 程度 交差点部 5,000 程度</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 突き固め回数は両面各 5 0 回とする。(動的安定度は、交通量区分 N 7 の場合を示している。他はわだち掘れ対策に準ずる。)</p> <p>[注 2] 上表により難しい場合は監督職員と協議しなければならない。</p>	項 目	目 標 値	空隙率 %	20 程度	透水係数 cm/sec	10 ⁻² 以上	安定度 kN	3.43 以上	動的安定度 (DS) 回/mm	一般部 4,000 程度 交差点部 5,000 程度	<p>変更なし</p>	
項 目	目 標 値											
空隙率 %	20 程度											
透水係数 cm/sec	10 ⁻² 以上											
安定度 kN	3.43 以上											
動的安定度 (DS) 回/mm	一般部 4,000 程度 交差点部 5,000 程度											

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																									
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-32 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1" data-bbox="299 373 1246 787"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th>規 格 値</th> <th rowspan="2">試 験 法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分 (%)</td> <td>50 以上</td> <td>JIS K6833-1,2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K6833-1,2</td> </tr> <tr> <td>指触乾燥時間 (分)</td> <td>90 以下</td> <td>JIS K5600</td> </tr> <tr> <td>低温風曲試験(-10℃、3mm)</td> <td>合 格</td> <td>JIS K5600</td> </tr> <tr> <td>基盤目試験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K5600</td> </tr> <tr> <td>耐湿試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5664</td> </tr> <tr> <td>塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5600</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 基盤目試験の判定点は(財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p>	項 目	規 格 値	試 験 法	ゴムアスファルト系	不揮発分 (%)	50 以上	JIS K6833-1,2	粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K6833-1,2	指触乾燥時間 (分)	90 以下	JIS K5600	低温風曲試験(-10℃、3mm)	合 格	JIS K5600	基盤目試験 (点)	10	JIS K5600	耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8 以上	JIS K5664	塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8 以上	JIS K5600	<p>変更なし</p>	
項 目		規 格 値		試 験 法																							
	ゴムアスファルト系																										
不揮発分 (%)	50 以上	JIS K6833-1,2																									
粘度 (25℃) [Poise(Pa·s)]	5(0.5)以下	JIS K6833-1,2																									
指触乾燥時間 (分)	90 以下	JIS K5600																									
低温風曲試験(-10℃、3mm)	合 格	JIS K5600																									
基盤目試験 (点)	10	JIS K5600																									
耐湿試験後の基盤目試験 (点)	8 以上	JIS K5664																									
塩水暴露試験後の基盤目試験 (点)	8 以上	JIS K5600																									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																				
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-33(1) 接着剤の規格コンクリート床版用</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">アスファルト系（ゴム入り） 溶剤型</th> <th colspan="2">ゴム系溶剤型</th> <th rowspan="2">試験方法</th> </tr> <tr> <th>1 次プライマー</th> <th>2 次プライマー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指触乾燥時間 (20℃)</td> <td>60 分以内</td> <td>30 分以内</td> <td>60 分以内</td> <td>JISK5600-1*1</td> </tr> <tr> <td>不揮発分 (%)</td> <td>20 以上</td> <td>10 以上</td> <td>25 以上</td> <td>JISK6833-1,2 *2</td> </tr> <tr> <td>作 業 性</td> <td colspan="3">塗り作業に支障のないこと</td> <td>JISK5600-1*1</td> </tr> <tr> <td>耐 久 性</td> <td colspan="3">5 日間で異常のないこと</td> <td>JISK5600-1*1</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] *1 適用する床版の種類に応じた下地材を使用する。(例:コンクリート床版の場合はコンクリートブロックまたはモルタルピースとし、鋼床版の場合は鋼板を使用する)</p> <p>*2 試験方法は、JIS K 6833-1,2、JIS K 6387-1,2などを参考に実施する。</p> <p>表 3-2-33(2) シート系床版防水層（流し貼り型、加熱溶着型、常温粘着型）プライマーの品質</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>種類 項目</th> <th>溶剤型</th> <th>水性型</th> <th>水性型</th> <th>試験方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指触乾燥時間 (23℃)分</td> <td>60 分以内</td> <td>60 分以内</td> <td>180 分以内</td> <td>JIS K5600-1 *1</td> </tr> <tr> <td>不揮発分%</td> <td>20 以上</td> <td>50 以上</td> <td>35 以上</td> <td>JISK6833 -1,2 *2</td> </tr> <tr> <td>作業性</td> <td colspan="3">塗り作業に支障のないこと</td> <td>JIS K5600-1 *1</td> </tr> <tr> <td>耐水性</td> <td colspan="3">5 日間で異常のないこと</td> <td>JIS K5600-1 *1</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] *1 適用する床版の種類に応じた下地剤を使用する</p> <p>*2 試験方法は JIS K6833-1,2,JISK6387-1,2などを参考に実施する</p> <p>[注 2] と幕系床版防水層（アスファルト加熱型）のプライマーは上表の品質による</p>	項 目	アスファルト系（ゴム入り） 溶剤型	ゴム系溶剤型		試験方法	1 次プライマー	2 次プライマー	指触乾燥時間 (20℃)	60 分以内	30 分以内	60 分以内	JISK5600-1*1	不揮発分 (%)	20 以上	10 以上	25 以上	JISK6833-1,2 *2	作 業 性	塗り作業に支障のないこと			JISK5600-1*1	耐 久 性	5 日間で異常のないこと			JISK5600-1*1	種類 項目	溶剤型	水性型	水性型	試験方法	指触乾燥時間 (23℃)分	60 分以内	60 分以内	180 分以内	JIS K5600-1 *1	不揮発分%	20 以上	50 以上	35 以上	JISK6833 -1,2 *2	作業性	塗り作業に支障のないこと			JIS K5600-1 *1	耐水性	5 日間で異常のないこと			JIS K5600-1 *1	<p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">変更なし</p>	
項 目			アスファルト系（ゴム入り） 溶剤型	ゴム系溶剤型		試験方法																																																
	1 次プライマー	2 次プライマー																																																				
指触乾燥時間 (20℃)	60 分以内	30 分以内	60 分以内	JISK5600-1*1																																																		
不揮発分 (%)	20 以上	10 以上	25 以上	JISK6833-1,2 *2																																																		
作 業 性	塗り作業に支障のないこと			JISK5600-1*1																																																		
耐 久 性	5 日間で異常のないこと			JISK5600-1*1																																																		
種類 項目	溶剤型	水性型	水性型	試験方法																																																		
指触乾燥時間 (23℃)分	60 分以内	60 分以内	180 分以内	JIS K5600-1 *1																																																		
不揮発分%	20 以上	50 以上	35 以上	JISK6833 -1,2 *2																																																		
作業性	塗り作業に支障のないこと			JIS K5600-1 *1																																																		
耐水性	5 日間で異常のないこと			JIS K5600-1 *1																																																		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																		
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 8 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-34 骨材の標準粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="308 369 1237 779"> <thead> <tr> <th data-bbox="308 369 774 417">ふるい目の開き</th> <th data-bbox="774 369 1237 417">通過質量百分率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="308 417 774 466">19.0 mm</td> <td data-bbox="774 417 1237 466">100</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 466 774 514">13.2 mm</td> <td data-bbox="774 466 1237 514">95～100</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 514 774 562">4.75 mm</td> <td data-bbox="774 514 1237 562">65～ 85</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 562 774 611">2.36 mm</td> <td data-bbox="774 562 1237 611">45～ 62</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 611 774 659">600 μ m</td> <td data-bbox="774 611 1237 659">35～ 50</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 659 774 707">300 μ m</td> <td data-bbox="774 659 1237 707">28～ 42</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 707 774 756">150 μ m</td> <td data-bbox="774 707 1237 756">25～ 34</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 756 774 779">75 μ m</td> <td data-bbox="774 756 1237 779">20～ 27</td> </tr> </tbody> </table>	ふるい目の開き	通過質量百分率 (%)	19.0 mm	100	13.2 mm	95～100	4.75 mm	65～ 85	2.36 mm	45～ 62	600 μ m	35～ 50	300 μ m	28～ 42	150 μ m	25～ 34	75 μ m	20～ 27	<p>変更なし</p>	
ふるい目の開き	通過質量百分率 (%)																			
19.0 mm	100																			
13.2 mm	95～100																			
4.75 mm	65～ 85																			
2.36 mm	45～ 62																			
600 μ m	35～ 50																			
300 μ m	28～ 42																			
150 μ m	25～ 34																			
75 μ m	20～ 27																			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由				
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 8 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-35 標準アスファルト量</p> <table border="1" data-bbox="409 373 1136 478"> <thead> <tr> <th></th> <th>混合物全量に対する百分率（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルト量</td> <td>7～10</td> </tr> </tbody> </table>		混合物全量に対する百分率（%）	アスファルト量	7～10	<p>変更なし</p>	
	混合物全量に対する百分率（%）					
アスファルト量	7～10					

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 9 項</p> <p>表 3-2-36 アスファルトプラントにおけるグースアスファルト混合物の基準値</p> <table border="1" data-bbox="264 373 1279 714"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>流動性試験、リュエル流動性 (240℃) sec</td> <td>3 ~ 20</td> </tr> <tr> <td>貫入量試験、貫入量 (40℃、52.5kg/5cm²、30 分) mm</td> <td>表層 1 ~ 4 基層 1 ~ 6</td> </tr> <tr> <td>ホイトラッキング試験、動的安定度(60℃、6.4kg/cm²)回/mm</td> <td>300 以上</td> </tr> <tr> <td>曲げ試験、破断ひずみ(-10℃、50mm/min)</td> <td>8.0×10⁻³以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験方法は、「舗装調査・試験法便覧」を参照する。</p>	項 目	基 準 値	流動性試験、リュエル流動性 (240℃) sec	3 ~ 20	貫入量試験、貫入量 (40℃、52.5kg/5cm ² 、30 分) mm	表層 1 ~ 4 基層 1 ~ 6	ホイトラッキング試験、動的安定度(60℃、6.4kg/cm ²)回/mm	300 以上	曲げ試験、破断ひずみ(-10℃、50mm/min)	8.0×10 ⁻³ 以上	<p>変更なし</p>	
項 目	基 準 値											
流動性試験、リュエル流動性 (240℃) sec	3 ~ 20											
貫入量試験、貫入量 (40℃、52.5kg/5cm ² 、30 分) mm	表層 1 ~ 4 基層 1 ~ 6											
ホイトラッキング試験、動的安定度(60℃、6.4kg/cm ²)回/mm	300 以上											
曲げ試験、破断ひずみ(-10℃、50mm/min)	8.0×10 ⁻³ 以上											

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由						
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 11 項</p> <p>表 3-2-37 アスファルトプラントにおける標準加熱温度</p> <table border="1" data-bbox="448 373 1098 516"> <thead> <tr> <th>材 料</th> <th>加 熱 温 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルト</td> <td>220℃ 以下</td> </tr> <tr> <td>石 粉</td> <td>常温～150℃</td> </tr> </tbody> </table>	材 料	加 熱 温 度	アスファルト	220℃ 以下	石 粉	常温～150℃	<p style="text-align: center;">変更なし</p>	
材 料	加 熱 温 度							
アスファルト	220℃ 以下							
石 粉	常温～150℃							

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由										
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-11 グースアスファルト舗装工 第 13 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-38 目地材の規格</p> <table border="1" data-bbox="278 373 1299 558"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規 格 値</th> <th>試 験 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度（円錐針）（mm）</td> <td>9 以下</td> <td rowspan="3">舗装調査・試験法便覧</td> </tr> <tr> <td>流動（mm）</td> <td>3 以下</td> </tr> <tr> <td>引張量（mm）</td> <td>10 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 試験方法は、「舗装調査・試験法便覧」を参照する。</p>	項 目	規 格 値	試 験 法	針入度（円錐針）（mm）	9 以下	舗装調査・試験法便覧	流動（mm）	3 以下	引張量（mm）	10 以上	<p>変更なし</p>	
項 目	規 格 値	試 験 法										
針入度（円錐針）（mm）	9 以下	舗装調査・試験法便覧										
流動（mm）	3 以下											
引張量（mm）	10 以上											

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表		理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 3 項							
表 3-2-39 安定処理路盤（下層路盤）の品質規格							
工 法	種 別	試験項目	試験方法	規格値			
セメント 安定処理	—	一軸圧縮強さ [7 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	0.98MPa			
石 灰 安定処理	—	一軸圧縮強さ [10 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	0.5MPa			
					変更なし		

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表		理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 3 項							
表 3-2-40 安定処理路盤（上層路盤）の品質規格							
工 法	種 別	試験項目	試験方法	規格値			
セメント 安定処理	—	一軸圧縮強さ [7 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	2.0MPa			
石 灰 安定処理	—	一軸圧縮強さ [10 日]	舗装調査・試験法 便覧 E013	0.98MPa			
					変更なし		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由								
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-41 マーシャル安定度試験基準値</p> <table border="1" data-bbox="320 373 1222 558"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>基 準 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43 以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10～40</td> </tr> <tr> <td>空げき率 (%)</td> <td>3～12</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 25mm を超える骨材部分は、同重量だけ 25mm～13mm で置き換えてマーシャル安定度試験を行う。</p>	項 目	基 準 値	安定度 kN	3.43 以上	フロー値 (1/100cm)	10～40	空げき率 (%)	3～12	<p>変更なし</p>	
項 目	基 準 値									
安定度 kN	3.43 以上									
フロー値 (1/100cm)	10～40									
空げき率 (%)	3～12									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由							
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-42 コンクリートの配合基準</p> <table border="1" data-bbox="278 373 1279 604"> <thead> <tr> <th data-bbox="278 373 546 426">粗骨材の最大寸法</th> <th data-bbox="546 373 1110 426">ス ラ ン プ</th> <th data-bbox="1110 373 1279 426">摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="278 426 546 604" rowspan="2" style="text-align: center;">40mm</td> <td data-bbox="546 426 1110 510" style="text-align: center;">2.5cm または沈下度 30 秒を標準とする。</td> <td data-bbox="1110 426 1279 604" rowspan="2" style="text-align: center;">舗設位置 において</td> </tr> <tr> <td data-bbox="546 510 1110 604" style="text-align: center;">6.5cm を標準とする。 (特殊箇所のコンクリート版)</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 特殊箇所とは、設計図書で示された施工箇所</p>	粗骨材の最大寸法	ス ラ ン プ	摘 要	40mm	2.5cm または沈下度 30 秒を標準とする。	舗設位置 において	6.5cm を標準とする。 (特殊箇所のコンクリート版)	<p>変更なし</p>	
粗骨材の最大寸法	ス ラ ン プ	摘 要							
40mm	2.5cm または沈下度 30 秒を標準とする。	舗設位置 において							
	6.5cm を標準とする。 (特殊箇所のコンクリート版)								

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 7 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-43 計量誤差の許容値</p> <table border="1" data-bbox="258 373 1279 485"> <thead> <tr> <th>材料の種類</th> <th>水</th> <th>セメント</th> <th>骨 材</th> <th>混 和 材</th> <th>混 和 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>許容誤差 (%)</td> <td>± 1</td> <td>± 1</td> <td>± 3</td> <td>± 2</td> <td>± 3</td> </tr> </tbody> </table>	材料の種類	水	セメント	骨 材	混 和 材	混 和 剤	許容誤差 (%)	± 1	± 1	± 3	± 2	± 3	<p>変更なし</p>	
材料の種類	水	セメント	骨 材	混 和 材	混 和 剤									
許容誤差 (%)	± 1	± 1	± 3	± 2	± 3									

現行（平成 25 年度）表						新（平成 27 年度）表						理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 13 項												
表 3-2-44 示方配合表												
種 別	粗骨材の最大寸法 (mm)	コンシステンシーの目標値 (%、秒)	細骨材率 s/a (%)	水セメント比 W/C (%)	単位粗骨材容積	単位量 (kg/m ³)					単位容積質量 (kg/m ³)	含水比 W (%)
						水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤		
理論配合		-	-	-	-							-
示方配合												
備考	(1)設計基準曲げ強度= MPa (2)配合強度= MPa (3)設計空隙率= % (4)セメントの種類： (5)混和剤の種類：					(6)粗骨材の種類： (7)細骨材のFM： (8)コンシステンシー評価法： (9)施工時間： (10)転圧コンクリート運搬時間： 分						
						変更なし						

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由															
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-6-12 コンクリート舗装工 第 14 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-45 注入目地材（加熱施工式）の品質</p> <table border="1" data-bbox="278 369 1267 726"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>低弾性タイプ</th> <th>高弾性タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度（円鍵針）</td> <td>6 mm 以下</td> <td>9 mm 以下</td> </tr> <tr> <td>弾 性（球針）</td> <td></td> <td>初期貫入量 0.5～1.5mm 復 元 率 60% 以上</td> </tr> <tr> <td>引 張 量</td> <td>3 mm 以上</td> <td>10mm 以上</td> </tr> <tr> <td>流 動</td> <td>5mm 以下</td> <td>3 mm 以下</td> </tr> </tbody> </table>	試験項目	低弾性タイプ	高弾性タイプ	針入度（円鍵針）	6 mm 以下	9 mm 以下	弾 性（球針）		初期貫入量 0.5～1.5mm 復 元 率 60% 以上	引 張 量	3 mm 以上	10mm 以上	流 動	5mm 以下	3 mm 以下	<p>変更なし</p>	
試験項目	低弾性タイプ	高弾性タイプ															
針入度（円鍵針）	6 mm 以下	9 mm 以下															
弾 性（球針）		初期貫入量 0.5～1.5mm 復 元 率 60% 以上															
引 張 量	3 mm 以上	10mm 以上															
流 動	5mm 以下	3 mm 以下															

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由														
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-2 材料 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-46 溶接材料区分</p> <table border="1" data-bbox="311 373 1231 1178"> <thead> <tr> <th data-bbox="311 373 706 451">使用区分</th> <th data-bbox="706 373 1231 451">使用する溶接材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="311 451 706 541">強度の同じ鋼材を溶接する場合</td> <td data-bbox="706 451 1231 541">母材の規格値と同等またはそれ以上の機械的性質を有する溶接材料</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 541 706 682">強度の異なる鋼材を溶接する場合</td> <td data-bbox="706 541 1231 682">低強度側の母材の規格値と同等またはそれ以上の機械的性質を有する溶接材料</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 682 706 772">じん性の同じ鋼材を溶接する場合</td> <td data-bbox="706 682 1231 772">母材の要求値と同等またはそれ以上のじん性を有する溶接材料</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 772 706 913">じん性の異なる鋼材を溶接する場合</td> <td data-bbox="706 772 1231 913">低じん性側の母材の要求値と同等またはそれ以上のじん性を有する溶接材料</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 913 706 1045">耐候性鋼と普通鋼を溶接する場合</td> <td data-bbox="706 913 1231 1045">普通鋼の母材と同等またはそれ以上の機械的性質、じん性を有する溶接材料</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 1045 706 1178">耐候性鋼と耐候性鋼を溶接する場合</td> <td data-bbox="706 1045 1231 1178">母材と同等またはそれ以上の機械的性質、じん性及び耐候性鋼を有する溶接材料</td> </tr> </tbody> </table>	使用区分	使用する溶接材料	強度の同じ鋼材を溶接する場合	母材の規格値と同等またはそれ以上の機械的性質を有する溶接材料	強度の異なる鋼材を溶接する場合	低強度側の母材の規格値と同等またはそれ以上の機械的性質を有する溶接材料	じん性の同じ鋼材を溶接する場合	母材の要求値と同等またはそれ以上のじん性を有する溶接材料	じん性の異なる鋼材を溶接する場合	低じん性側の母材の要求値と同等またはそれ以上のじん性を有する溶接材料	耐候性鋼と普通鋼を溶接する場合	普通鋼の母材と同等またはそれ以上の機械的性質、じん性を有する溶接材料	耐候性鋼と耐候性鋼を溶接する場合	母材と同等またはそれ以上の機械的性質、じん性及び耐候性鋼を有する溶接材料	<p>変更なし</p>	
使用区分	使用する溶接材料															
強度の同じ鋼材を溶接する場合	母材の規格値と同等またはそれ以上の機械的性質を有する溶接材料															
強度の異なる鋼材を溶接する場合	低強度側の母材の規格値と同等またはそれ以上の機械的性質を有する溶接材料															
じん性の同じ鋼材を溶接する場合	母材の要求値と同等またはそれ以上のじん性を有する溶接材料															
じん性の異なる鋼材を溶接する場合	低じん性側の母材の要求値と同等またはそれ以上のじん性を有する溶接材料															
耐候性鋼と普通鋼を溶接する場合	普通鋼の母材と同等またはそれ以上の機械的性質、じん性を有する溶接材料															
耐候性鋼と耐候性鋼を溶接する場合	母材と同等またはそれ以上の機械的性質、じん性及び耐候性鋼を有する溶接材料															

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-2 材料 第 3 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-47 溶接棒乾燥の温度と時間</p> <table border="1" data-bbox="278 369 1267 779"> <thead> <tr> <th>溶接棒の種類</th> <th>溶接棒の状態</th> <th>乾燥温度</th> <th>乾燥時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軟鋼用被覆 アーク溶接棒</td> <td>乾燥（開封）後 1 2 時間以上経過したときもしくは溶接棒が吸湿したおそれがあるとき</td> <td>100～150℃</td> <td>1 時間以上</td> </tr> <tr> <td>低水素系被覆 アーク溶接棒</td> <td>乾燥（開封）後 4 時間以上経過したときもしくは溶接棒が吸湿したおそれがあるとき</td> <td>300～400℃</td> <td>1 時間以上</td> </tr> </tbody> </table>	溶接棒の種類	溶接棒の状態	乾燥温度	乾燥時間	軟鋼用被覆 アーク溶接棒	乾燥（開封）後 1 2 時間以上経過したときもしくは溶接棒が吸湿したおそれがあるとき	100～150℃	1 時間以上	低水素系被覆 アーク溶接棒	乾燥（開封）後 4 時間以上経過したときもしくは溶接棒が吸湿したおそれがあるとき	300～400℃	1 時間以上	<p>変更なし</p>	
溶接棒の種類	溶接棒の状態	乾燥温度	乾燥時間											
軟鋼用被覆 アーク溶接棒	乾燥（開封）後 1 2 時間以上経過したときもしくは溶接棒が吸湿したおそれがあるとき	100～150℃	1 時間以上											
低水素系被覆 アーク溶接棒	乾燥（開封）後 4 時間以上経過したときもしくは溶接棒が吸湿したおそれがあるとき	300～400℃	1 時間以上											

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由									
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-2 材料 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-48 フラックスの乾燥の温度と時間</p> <table border="1" data-bbox="323 464 1222 640"> <thead> <tr> <th>フラックスの種類</th> <th>乾燥温度</th> <th>乾燥時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溶 触 フ ラ ッ ク ス</td> <td>150～200℃</td> <td>1 時間以上</td> </tr> <tr> <td>ボンドフラックス</td> <td>200～250℃</td> <td>1 時間以上</td> </tr> </tbody> </table>	フラックスの種類	乾燥温度	乾燥時間	溶 触 フ ラ ッ ク ス	150～200℃	1 時間以上	ボンドフラックス	200～250℃	1 時間以上	<p>変更なし</p>	
フラックスの種類	乾燥温度	乾燥時間									
溶 触 フ ラ ッ ク ス	150～200℃	1 時間以上									
ボンドフラックス	200～250℃	1 時間以上									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																																		
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-2 材料 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-49 塗料の可使時間</p> <table border="1" data-bbox="305 373 1240 1577"> <thead> <tr> <th>塗料名</th> <th>可使時間（時間）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>20℃、8 以内</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー</td> <td rowspan="3">20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチペイント</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>10℃、8 以内</td> </tr> <tr> <td>変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td rowspan="2">30℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">変性エポキシ樹脂塗料内面用</td> <td>20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>30℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>20℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）</td> <td>5℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）</td> <td rowspan="2">10℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料</td> <td>20℃、1 以内</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）</td> <td>10℃、1 以内</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗</td> <td rowspan="4">20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> <tr> <td>弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗</td> </tr> <tr> <td>弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td rowspan="4">30℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> </tbody> </table>	塗料名	可使時間（時間）	長ばく形エッチングプライマー	20℃、8 以内	無機ジンクリッチプライマー	20℃、5 以内	無機ジンクリッチペイント	有機ジンクリッチペイント	エポキシ樹脂塗料下塗	10℃、8 以内	変性エポキシ樹脂塗料下塗	20℃、5 以内	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗	30℃、3 以内	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	変性エポキシ樹脂塗料内面用	20℃、5 以内	30℃、3 以内	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	20℃、3 以内	エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	5℃、5 以内	変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	10℃、3 以内	変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	20℃、1 以内	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	10℃、1 以内	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	20℃、5 以内	ふっ素樹脂塗料用中塗	20℃、5 以内	ふっ素樹脂塗料上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗	30℃、3 以内	コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗	コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-2 材料 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-49 多液形塗料の可使時間</p> <table border="1" data-bbox="1454 373 2389 1577"> <thead> <tr> <th>塗料名</th> <th>可使時間（時間）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>20℃、8 以内</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー</td> <td rowspan="3">20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチペイント</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>10℃、8 以内</td> </tr> <tr> <td>変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td rowspan="2">30℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">変性エポキシ樹脂塗料内面用</td> <td>20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>30℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>20℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）</td> <td>5℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）</td> <td rowspan="2">10℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料</td> <td>20℃、1 以内</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）</td> <td>10℃、1 以内</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗</td> <td rowspan="4">20℃、5 以内</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> <tr> <td>弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗</td> </tr> <tr> <td>弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td rowspan="4">30℃、3 以内</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> </tr> </tbody> </table>	塗料名	可使時間（時間）	長ばく形エッチングプライマー	20℃、8 以内	無機ジンクリッチプライマー	20℃、5 以内	無機ジンクリッチペイント	有機ジンクリッチペイント	エポキシ樹脂塗料下塗	10℃、8 以内	変性エポキシ樹脂塗料下塗	20℃、5 以内	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗	30℃、3 以内	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	変性エポキシ樹脂塗料内面用	20℃、5 以内	30℃、3 以内	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	20℃、3 以内	エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	5℃、5 以内	変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	10℃、3 以内	変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	20℃、1 以内	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	10℃、1 以内	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	20℃、5 以内	ふっ素樹脂塗料用中塗	20℃、5 以内	ふっ素樹脂塗料上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗	30℃、3 以内	コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗	コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	<p>「鋼道路橋防食便覧（平成 26 年 3 月）」の内容修正による改定</p>
塗料名	可使時間（時間）																																																																																			
長ばく形エッチングプライマー	20℃、8 以内																																																																																			
無機ジンクリッチプライマー	20℃、5 以内																																																																																			
無機ジンクリッチペイント																																																																																				
有機ジンクリッチペイント																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗	10℃、8 以内																																																																																			
変性エポキシ樹脂塗料下塗	20℃、5 以内																																																																																			
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗	30℃、3 以内																																																																																			
弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗																																																																																				
変性エポキシ樹脂塗料内面用	20℃、5 以内																																																																																			
	30℃、3 以内																																																																																			
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	20℃、3 以内																																																																																			
エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	5℃、5 以内																																																																																			
変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	10℃、3 以内																																																																																			
変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	20℃、1 以内																																																																																			
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	10℃、1 以内																																																																																			
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	20℃、5 以内																																																																																			
ふっ素樹脂塗料用中塗	20℃、5 以内																																																																																			
ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗																																																																																				
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗	30℃、3 以内																																																																																			
コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗																																																																																				
コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
塗料名	可使時間（時間）																																																																																			
長ばく形エッチングプライマー	20℃、8 以内																																																																																			
無機ジンクリッチプライマー	20℃、5 以内																																																																																			
無機ジンクリッチペイント																																																																																				
有機ジンクリッチペイント																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗	10℃、8 以内																																																																																			
変性エポキシ樹脂塗料下塗	20℃、5 以内																																																																																			
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗	30℃、3 以内																																																																																			
弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗																																																																																				
変性エポキシ樹脂塗料内面用	20℃、5 以内																																																																																			
	30℃、3 以内																																																																																			
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	20℃、3 以内																																																																																			
エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	5℃、5 以内																																																																																			
変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用）	10℃、3 以内																																																																																			
変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	20℃、1 以内																																																																																			
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	10℃、1 以内																																																																																			
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	20℃、5 以内																																																																																			
ふっ素樹脂塗料用中塗	20℃、5 以内																																																																																			
ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗																																																																																				
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗	30℃、3 以内																																																																																			
コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗																																																																																				
コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				
コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗																																																																																				

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由									
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 1 項</p> <p>表 3-2-50 シャルピー吸収エネルギーに対する冷間曲げ加工半径の許容値</p> <table border="1" data-bbox="246 373 1299 527"> <thead> <tr> <th>シャルピー吸収エネルギー（J）</th> <th>冷間曲げ加工の内側半径</th> <th>付記記号^{注1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>150 以上</td> <td>板厚の 7 倍以上</td> <td>-7L, - 7C</td> </tr> <tr> <td>200 以上</td> <td>板厚の 5 倍以上</td> <td>-5L, - 5C</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 1 番目の数字：最小曲げ半径の板厚の倍率 [注 2] 2 番目の記号：曲げ加工方向（L：最終圧延方向と同一方向 C：最終圧延方向と直角方向）</p>	シャルピー吸収エネルギー（J）	冷間曲げ加工の内側半径	付記記号 ^{注1}	150 以上	板厚の 7 倍以上	-7L, - 7C	200 以上	板厚の 5 倍以上	-5L, - 5C	<p>変更なし</p>	
シャルピー吸収エネルギー（J）	冷間曲げ加工の内側半径	付記記号 ^{注1}									
150 以上	板厚の 7 倍以上	-7L, - 7C									
200 以上	板厚の 5 倍以上	-5L, - 5C									

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表				理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 1 項						
表 3-2-51 予熱温度の標準						
鋼 種	溶 接 方 法	予 熱 温 度 (°C)				
		板 厚 区 分 (mm)				
		25 以下	25 をこえ 40 以下	40 をこえ 50 以下	50 をこえ 100 以下	
SM400	低水素系以外の溶接棒による被覆アーク溶接	予熱なし	50	—	—	変更なし
	低水素系の溶接棒による被覆アーク溶接	予熱なし	予熱なし	50	50	
	サブマージアーク溶接 ガスシールドアーク溶接	予熱なし	予熱なし	予熱なし	予熱なし	
SMA 400W	低水素系の溶接棒による被覆アーク溶接	予熱なし	予熱なし	50	50	
	サブマージアーク溶接 ガスシールドアーク溶接	予熱なし	予熱なし	予熱なし	予熱なし	
SM490	低水素系の溶接棒による被覆アーク溶接	予熱なし	50	80	80	
SM490Y	サブマージアーク溶接 ガスシールドアーク溶接	予熱なし	予熱なし	50	50	
SM520	低水素系の溶接棒による被覆アーク溶接	予熱なし	80	80	100	
SM570	サブマージアーク溶接 ガスシールドアーク溶接	予熱なし	50	50	80	
SMA 490W	低水素系の溶接棒による被覆アーク溶接	予熱なし	80	80	100	
SMA 570W	サブマージアーク溶接 ガスシールドアーク溶接	予熱なし	50	50	80	
[注] 「予熱なし」については、気温（室内の場合は室温）が 5℃以下の場合、20℃程度に加熱する。						

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由	
第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 1 項					
表 3-2-52 主要部材の完全溶込みの突合せ継手の非破壊試験検査率					
部 材	1 検査ロットをグループ分けする場合の 1 グループの最大継手数	放射線透過試験	超音波探傷試験		
		撮影枚数	検査長さ		
引 張 部 材	1	1 枚（端部を含む）		変更なし	
圧 縮 部 材	5	1 枚（端部を含む）			
曲 げ 部 材	引張フランジ	1	1 枚（端部を含む）		
	圧縮フランジ	5	1 枚（端部を含む）		
	腹 板	応力に直角な方向の継手	1		1 枚（引張側）
		応力に平行な方向の継手	1		1 枚（端部を含む）
鋼 床 版	1	1 枚（端部を含む）			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由													
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 1 項</p> <p>表 3-2-53 現場溶接を行う完全溶込みの突合せ溶接継手の非破壊試験検査率</p> <table border="1" data-bbox="246 373 1288 829"> <thead> <tr> <th data-bbox="246 373 617 464">部 材</th> <th data-bbox="617 373 973 417">放射線透過試験</th> <th data-bbox="973 373 1288 417">超音波探傷試験</th> </tr> <tr> <td></td> <th data-bbox="617 417 973 464">撮影箇所</th> <th data-bbox="973 417 1288 464">検査長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="246 464 617 508">鋼製橋脚のはり及び柱</td> <td colspan="2" data-bbox="617 464 1288 508" rowspan="2">継手全長を原則とする</td> </tr> <tr> <td data-bbox="246 508 617 598">主桁のフランジ（鋼床版を除く）及び腹板</td> </tr> <tr> <td data-bbox="246 598 617 829">鋼床版のデッキプレート</td> <td data-bbox="617 598 973 829">継手の始末端で連続して各 50cm（2 枚）、中間部で 1 m につき 1 箇所（1 枚）及びワイヤ継ぎ部で 1 箇所（1 枚）を原則とする。</td> <td data-bbox="973 598 1288 829">継手全長を原則とする</td> </tr> </tbody> </table>	部 材	放射線透過試験	超音波探傷試験		撮影箇所	検査長さ	鋼製橋脚のはり及び柱	継手全長を原則とする		主桁のフランジ（鋼床版を除く）及び腹板	鋼床版のデッキプレート	継手の始末端で連続して各 50cm（2 枚）、中間部で 1 m につき 1 箇所（1 枚）及びワイヤ継ぎ部で 1 箇所（1 枚）を原則とする。	継手全長を原則とする	<p>変更なし</p>	
部 材	放射線透過試験	超音波探傷試験													
	撮影箇所	検査長さ													
鋼製橋脚のはり及び柱	継手全長を原則とする														
主桁のフランジ（鋼床版を除く）及び腹板															
鋼床版のデッキプレート	継手の始末端で連続して各 50cm（2 枚）、中間部で 1 m につき 1 箇所（1 枚）及びワイヤ継ぎ部で 1 箇所（1 枚）を原則とする。	継手全長を原則とする													

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表	理 由																
第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 1 項																			
<p>表 3-2-54 欠陥の補修方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>欠 陥 の 種 類</th> <th>補 修 方 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 アークストライク</td> <td>母材表面に凹みを生じた部分は溶接肉盛りの後グラインダー仕上げする。わずかな痕跡のある程度のはグラインダー仕上げのみでよい</td> </tr> <tr> <td>2 組立溶接の欠陥</td> <td>欠陥部をアークエアガウジング等で除去し、必要であれば再度組立溶接を行う。</td> </tr> <tr> <td>3 溶接われ</td> <td>われ部分を完全に除去し、発生原因を究明して、それに応じた再溶接を行う。</td> </tr> <tr> <td>4 溶接ビード表面のピット</td> <td>アークエアガウジングでその部分を除去し、再溶接する。</td> </tr> <tr> <td>5 オーバーラップ</td> <td>グラインダーで削りを整形する。</td> </tr> <tr> <td>6 溶接ビード表面の凸凹</td> <td>グラインダー仕上げする。</td> </tr> <tr> <td>7 アンダーカット</td> <td>程度に応じて、グラインダー仕上げのみ、または溶接後、グラインダー仕上げする。</td> </tr> </tbody> </table>		欠 陥 の 種 類	補 修 方 法	1 アークストライク	母材表面に凹みを生じた部分は溶接肉盛りの後グラインダー仕上げする。わずかな痕跡のある程度のはグラインダー仕上げのみでよい	2 組立溶接の欠陥	欠陥部をアークエアガウジング等で除去し、必要であれば再度組立溶接を行う。	3 溶接われ	われ部分を完全に除去し、発生原因を究明して、それに応じた再溶接を行う。	4 溶接ビード表面のピット	アークエアガウジングでその部分を除去し、再溶接する。	5 オーバーラップ	グラインダーで削りを整形する。	6 溶接ビード表面の凸凹	グラインダー仕上げする。	7 アンダーカット	程度に応じて、グラインダー仕上げのみ、または溶接後、グラインダー仕上げする。	<p>変更なし</p>	
欠 陥 の 種 類	補 修 方 法																		
1 アークストライク	母材表面に凹みを生じた部分は溶接肉盛りの後グラインダー仕上げする。わずかな痕跡のある程度のはグラインダー仕上げのみでよい																		
2 組立溶接の欠陥	欠陥部をアークエアガウジング等で除去し、必要であれば再度組立溶接を行う。																		
3 溶接われ	われ部分を完全に除去し、発生原因を究明して、それに応じた再溶接を行う。																		
4 溶接ビード表面のピット	アークエアガウジングでその部分を除去し、再溶接する。																		
5 オーバーラップ	グラインダーで削りを整形する。																		
6 溶接ビード表面の凸凹	グラインダー仕上げする。																		
7 アンダーカット	程度に応じて、グラインダー仕上げのみ、または溶接後、グラインダー仕上げする。																		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由														
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 1 項</p> <p>表 3-2-55 ガス炎加熱法による線状加熱時の鋼材表面温度及び冷却法</p> <table border="1" data-bbox="270 373 1279 667"> <thead> <tr> <th>鋼 種</th> <th>鋼材表面温度</th> <th>冷 却 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調質鋼（Q）</td> <td>750℃以下</td> <td>空冷または空冷後 600℃以下で水冷</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">熱加工 制御鋼 (TMC)</td> <td>$C_{eq} > 0.38$</td> <td>空冷または空冷後 500℃以下で水冷</td> </tr> <tr> <td>$C_{eq} \leq 0.38$</td> <td>加熱直後水冷または空冷</td> </tr> <tr> <td>その他の鋼材</td> <td>900℃以下</td> <td>赤熱状態からの水冷をさける</td> </tr> </tbody> </table>	鋼 種	鋼材表面温度	冷 却 法	調質鋼（Q）	750℃以下	空冷または空冷後 600℃以下で水冷	熱加工 制御鋼 (TMC)	$C_{eq} > 0.38$	空冷または空冷後 500℃以下で水冷	$C_{eq} \leq 0.38$	加熱直後水冷または空冷	その他の鋼材	900℃以下	赤熱状態からの水冷をさける	<p>変更なし</p>	
鋼 種	鋼材表面温度	冷 却 法														
調質鋼（Q）	750℃以下	空冷または空冷後 600℃以下で水冷														
熱加工 制御鋼 (TMC)	$C_{eq} > 0.38$	空冷または空冷後 500℃以下で水冷														
	$C_{eq} \leq 0.38$	加熱直後水冷または空冷														
その他の鋼材	900℃以下	赤熱状態からの水冷をさける														

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由														
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-56 ボルト孔の径</p> <table border="1" data-bbox="344 369 1196 684"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ボルトの呼び</th> <th colspan="2">ボルトの孔の径 (mm)</th> </tr> <tr> <th>摩擦接合 引張接合</th> <th>支圧接合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M20</td> <td>22.5</td> <td>21.5</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>24.5</td> <td>23.5</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>26.5</td> <td>25.5</td> </tr> </tbody> </table>	ボルトの呼び	ボルトの孔の径 (mm)		摩擦接合 引張接合	支圧接合	M20	22.5	21.5	M22	24.5	23.5	M24	26.5	25.5	<p>変更なし</p>	
ボルトの呼び		ボルトの孔の径 (mm)														
	摩擦接合 引張接合	支圧接合														
M20	22.5	21.5														
M22	24.5	23.5														
M24	26.5	25.5														

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由														
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-57 ボルト孔の径の許容差</p> <table border="1" data-bbox="368 369 1175 659"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ボルトの呼び</th> <th colspan="2">ボルト孔の径の許容差(mm)</th> </tr> <tr> <th>摩擦接合 引張接合</th> <th>支圧接合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M20</td> <td>+0.5</td> <td>±0.3</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>+0.5</td> <td>±0.3</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>+0.5</td> <td>±0.3</td> </tr> </tbody> </table>	ボルトの呼び	ボルト孔の径の許容差(mm)		摩擦接合 引張接合	支圧接合	M20	+0.5	±0.3	M22	+0.5	±0.3	M24	+0.5	±0.3	<p>変更なし</p>	
ボルトの呼び		ボルト孔の径の許容差(mm)														
	摩擦接合 引張接合	支圧接合														
M20	+0.5	±0.3														
M22	+0.5	±0.3														
M24	+0.5	±0.3														

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																						
<p>第 3 編土木工事共通編 3-2-12-3 桁製作工 第 2 項</p> <p style="text-align: center;">表 3-2-58 ボルト孔の貫通率及び停止率</p> <table border="1" data-bbox="278 369 1267 640"> <thead> <tr> <th></th> <th>ねじの呼び</th> <th>貫通ゲージ の径(mm)</th> <th>貫 通 率 (%)</th> <th>停止ゲージ の径(mm)</th> <th>停 止 率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">摩擦接合 引張接合</td> <td>M20</td> <td>21.0</td> <td>100</td> <td>23.0</td> <td>80 以上</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>23.0</td> <td>100</td> <td>25.0</td> <td>80 以上</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>25.0</td> <td>100</td> <td>27.0</td> <td>80 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">支圧接合</td> <td>M20</td> <td>20.7</td> <td>100</td> <td>21.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>22.7</td> <td>100</td> <td>23.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>M24</td> <td>24.7</td> <td>100</td> <td>25.8</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		ねじの呼び	貫通ゲージ の径(mm)	貫 通 率 (%)	停止ゲージ の径(mm)	停 止 率 (%)	摩擦接合 引張接合	M20	21.0	100	23.0	80 以上	M22	23.0	100	25.0	80 以上	M24	25.0	100	27.0	80 以上	支圧接合	M20	20.7	100	21.8	100	M22	22.7	100	23.8	100	M24	24.7	100	25.8	100	<p>変更なし</p>	
	ねじの呼び	貫通ゲージ の径(mm)	貫 通 率 (%)	停止ゲージ の径(mm)	停 止 率 (%)																																			
摩擦接合 引張接合	M20	21.0	100	23.0	80 以上																																			
	M22	23.0	100	25.0	80 以上																																			
	M24	25.0	100	27.0	80 以上																																			
支圧接合	M20	20.7	100	21.8	100																																			
	M22	22.7	100	23.8	100																																			
	M24	24.7	100	25.8	100																																			

現行（平成 25 年度）表		新（平成 27 年度）表		理 由
第 3 編土木工事共通編 3-2-12-8 アンカーフレーム製作工 第 2 項				
表 3-2-59 ねじの種類、ピッチ及び精度				
	ボルトの呼び径			
	68mm 以下	68mm をこえるもの		
ねじの種類	メートル並目ねじ JIS B 0205 (一般用メートルねじ)	メートル細目ねじ JIS B 0205 (一般用メートルねじ)		
ピ ッ チ	JIS 規格による	6 mm		
精 度	3 級 JIS B 0209 (一般用メートル ねじ-公差)	3 級 JIS B 0209 (一般用メートル ねじ-公差)		
		変更なし		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																																																																																				
第 3 編土木工事共通編 3-2-12-11 工場塗装工 第 3 項	第 3 編土木工事共通編 3-2-12-11 工場塗装工 第 3 項	「鋼道路橋防食便覧（平成 26 年 3 月）」の内容修正による改定																																																																																				
表 3-2-60 塗装禁止条件	表 3-2-60 塗装禁止条件																																																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">塗装の種類</th> <th style="width: 20%;">気温（℃）</th> <th style="width: 20%;">湿度（RH%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント</td> <td>0 以下</td> <td>50 以下</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※</td> <td>10 以下、30 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> <td>0 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> </tbody> </table>	塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）	長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上	無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下	有機ジンクリッチペイント	10 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上	鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">塗装の種類</th> <th style="width: 20%;">気温（℃）</th> <th style="width: 20%;">湿度（RH%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント</td> <td>0 以下</td> <td>50 以下</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※</td> <td>10 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※</td> <td>10 以下、30 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）</td> <td>5 以下、20 以上</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> <td>0 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> <tr> <td>鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗</td> <td>5 以下</td> <td>85 以上</td> </tr> </tbody> </table>	塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）	長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上	無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下	有機ジンクリッチペイント	5 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	5 以下	85 以上	エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上	ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上	鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上	
塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）																																																																																				
長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下																																																																																				
有機ジンクリッチペイント	10 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上																																																																																				
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上																																																																																				
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上																																																																																				
鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上																																																																																				
塗装の種類	気温（℃）	湿度（RH%）																																																																																				
長ばく形エッチングプライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0 以下	50 以下																																																																																				
有機ジンクリッチペイント	5 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10 以下	85 以上																																																																																				
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	5 以下	85 以上																																																																																				
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	5 以下	85 以上																																																																																				
エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料下塗（低温用） 変性エポキシ樹脂塗料内面用（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 ※	10 以下、30 以上	85 以上																																																																																				
無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料（低温用）	5 以下、20 以上	85 以上																																																																																				
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5 以下	85 以上																																																																																				
ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0 以下	85 以上																																																																																				
鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5 以下	85 以上																																																																																				
注) ※印を付した塗料を低温時に塗布する場合は、低温用の塗料を用いなければならない。	注) ※印を付した塗料を低温時に塗布する場合は、低温用の塗料を用いなければならない。																																																																																					

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表					理 由																																																																			
第 6 編河川編 6-1-7-2 材料																																																																													
<p align="center">表 6-1-1 純ポリ塩化ビニル：（厚さ：1mm、色：透明）の品質規格</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>内 容</th> <th>単 位</th> <th>規格値</th> <th>試験方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>比 重</td> <td></td> <td></td> <td>1.25 以下</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>硬 さ</td> <td></td> <td></td> <td>80±5</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td></td> <td>N/mm²</td> <td>11.8 以上</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>伸 び</td> <td></td> <td>%</td> <td>290 以上</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>※老化性</td> <td>質量変化率</td> <td>%</td> <td>±7</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">※耐薬品性</td> <td rowspan="3">アルカリ</td> <td>引張強さ変化率</td> <td>%</td> <td>±15</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>伸び 変化率</td> <td>%</td> <td>±15</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>質量 変化率</td> <td>%</td> <td>±3</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">食塩水</td> <td>引張強さ変化率</td> <td>%</td> <td>±7</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>伸び 変化率</td> <td>%</td> <td>±7</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>質量 変化率</td> <td>%</td> <td>±1</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>柔軟性</td> <td></td> <td>℃</td> <td>-30 以下</td> <td>JIS K 6773</td> </tr> <tr> <td>引裂強さ</td> <td></td> <td>N/m (kgf/cm)</td> <td>58800 以上 (60 以上)</td> <td>JIS K 6252</td> </tr> </tbody> </table>										試験項目	内 容	単 位	規格値	試験方法	比 重			1.25 以下	JIS K 6773	硬 さ			80±5	JIS K 6773	引張強さ		N/mm ²	11.8 以上	JIS K 6773	伸 び		%	290 以上	JIS K 6773	※老化性	質量変化率	%	±7	JIS K 6773	※耐薬品性	アルカリ	引張強さ変化率	%	±15	JIS K 6773	伸び 変化率	%	±15	JIS K 6773	質量 変化率	%	±3	JIS K 6773	食塩水	引張強さ変化率	%	±7	JIS K 6773	伸び 変化率	%	±7	JIS K 6773	質量 変化率	%	±1	JIS K 6773	柔軟性		℃	-30 以下	JIS K 6773	引裂強さ		N/m (kgf/cm)	58800 以上 (60 以上)	JIS K 6252	
試験項目	内 容	単 位	規格値	試験方法																																																																									
比 重			1.25 以下	JIS K 6773																																																																									
硬 さ			80±5	JIS K 6773																																																																									
引張強さ		N/mm ²	11.8 以上	JIS K 6773																																																																									
伸 び		%	290 以上	JIS K 6773																																																																									
※老化性	質量変化率	%	±7	JIS K 6773																																																																									
※耐薬品性	アルカリ	引張強さ変化率	%	±15	JIS K 6773																																																																								
		伸び 変化率	%	±15	JIS K 6773																																																																								
		質量 変化率	%	±3	JIS K 6773																																																																								
	食塩水	引張強さ変化率	%	±7	JIS K 6773																																																																								
		伸び 変化率	%	±7	JIS K 6773																																																																								
		質量 変化率	%	±1	JIS K 6773																																																																								
柔軟性		℃	-30 以下	JIS K 6773																																																																									
引裂強さ		N/m (kgf/cm)	58800 以上 (60 以上)	JIS K 6252																																																																									
<p>※公的試験機関のみの試験項目</p>																																																																													
					変更なし																																																																								

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表					理 由
第 6 編河川編 6-1-7-2 材料										
表 6-1-2 エチレン酢酸ビニル（厚さ：1mm、色：透明）の品質規格										
試験項目	内 容		単 位	規格値	試験方法					
比 重				1.0 以下	JIS K 6773					
硬 さ				93±5	JIS K 6773					
引張強さ			N/mm ²	15.6 以上	JIS K 6773					
伸 び			%	400 以上	JIS K 6773					
※老化性	質量変化率		%	±7	JIS K 6773					
※耐薬品性	アルカリ	引張強さ変化率		%	±15					
		伸び 変化率		%	±15					
		質量 変化率		%	±3					
	食塩水	引張強さ変化率		%	±7					
		伸び 変化率		%	±7					
		質量 変化率		%	±1					
柔軟性			℃	-30 以下	JIS K 6773					
引裂強さ			N/m (kgf/cm)	58800 以上 (60 以上)	JIS K 6252					
※公的試験機関のみの試験項目										
					変更なし					

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																														
<p>第 6 編河川編 6-1-7-2 材料</p> <p>表 6-1-3 補強布付き繊維性フェルト（厚さ:10mm）の品質規格</p> <table border="1" data-bbox="323 371 1219 877"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>内容</th> <th>単位</th> <th>規格値</th> <th>試験方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>密度</td> <td></td> <td>g / cm³</td> <td>0.13 以上</td> <td>JIS L 3204</td> </tr> <tr> <td>圧縮率</td> <td></td> <td>%</td> <td>15 以下</td> <td>JIS L 3204</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td></td> <td>N / mm² (kgf / cm²)</td> <td>1.47 以上 (15 以上)</td> <td>JIS L 3204</td> </tr> <tr> <td>伸び率</td> <td></td> <td>%</td> <td>50 以上</td> <td>JIS L 3204</td> </tr> <tr> <td>耐薬品性</td> <td>不溶解分</td> <td>%</td> <td>95 以上</td> <td>JIS L 3204</td> </tr> </tbody> </table>	試験項目	内容	単位	規格値	試験方法	密度		g / cm ³	0.13 以上	JIS L 3204	圧縮率		%	15 以下	JIS L 3204	引張強さ		N / mm ² (kgf / cm ²)	1.47 以上 (15 以上)	JIS L 3204	伸び率		%	50 以上	JIS L 3204	耐薬品性	不溶解分	%	95 以上	JIS L 3204	<p style="text-align: center;">変更なし</p>	
試験項目	内容	単位	規格値	試験方法																												
密度		g / cm ³	0.13 以上	JIS L 3204																												
圧縮率		%	15 以下	JIS L 3204																												
引張強さ		N / mm ² (kgf / cm ²)	1.47 以上 (15 以上)	JIS L 3204																												
伸び率		%	50 以上	JIS L 3204																												
耐薬品性	不溶解分	%	95 以上	JIS L 3204																												

現行（平成 25 年度）表				新（平成 27 年度）表	理 由
第 6 編河川編 6-1-7-2 材料					
表 6-1-4 止水材の品質規格					
試験項目	単 位	規格値	試 験 方 法		
漏水量	(ml/sec) /(1.8m ²)	25 以下	建設省土木研究資料 第 3103 号の小型浸透試験による		
引張強さ	N/mm ² (kgf/m)	11.8 以上	日本工業規格 (JIS) で規定され ている各材料ごとの試験方法による。		
摩擦係数		0.8 以上	平成 4 年度建設省告示第 1324 号 に基づく摩擦試験方法による。		
				変更なし	

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表		理 由
第 6 編河川編 6-9-8-3 付属物塗装工 第 1 項							
表 6-9-1 素地調整程度と作業内容							
素地調整程度	さび面積	塗膜異常面積	作業内容	作業方法			
1 種	—	—	さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。	ブラスト法			
2 種	30%以上	—	旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜が B、b 塗装系の場合はジンクプライマーやジンクリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。	ディスクサンダー、ワイヤホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法			
3 種A	15～30%	30%以上	活膜は残すが、それ以外の不良部（さび、割れ、ふくれ）は除去する。	同上	変更なし		
3 種B	5～15%	15～30%	同上	同上			
3 種C	5%以下	5～15%	同上	同上			
4 種	—	5%以下	粉化物、汚れなどを除去する。	同上			

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由								
<p>第 9 編ダム編 9-1-4-6 練りませ 第 5 項</p> <p style="text-align: center;">表 9-1-1 ミキサの標準最小練りませ時間</p> <table border="1" data-bbox="463 373 1080 558"> <thead> <tr> <th>ミキサ容量 (m³)</th> <th>練りませ時間 (分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 以下～ 2 超</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>2 以下～ 1.5 超</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>1.5 以下</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table>	ミキサ容量 (m ³)	練りませ時間 (分)	3 以下～ 2 超	2.5	2 以下～ 1.5 超	2.0	1.5 以下	1.5	<p>変更なし</p>	
ミキサ容量 (m ³)	練りませ時間 (分)									
3 以下～ 2 超	2.5									
2 以下～ 1.5 超	2.0									
1.5 以下	1.5									

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由													
<p>第 10 編道路編 10-2-4-10 コンクリート舗装工 第 6 項</p> <p style="text-align: center;">表 10-2-1 横収縮目地間隔の標準値</p> <table border="1" data-bbox="261 415 1285 646"> <thead> <tr> <th>版の構造</th> <th>版厚</th> <th>間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鉄網及び縁部補強鉄筋を省略</td> <td>25cm 未満</td> <td>5m</td> </tr> <tr> <td>25cm 以上</td> <td>6m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄網及び縁部補強鉄筋を使用</td> <td>25cm 未満</td> <td>8m</td> </tr> <tr> <td>25cm 以上</td> <td>10m</td> </tr> </tbody> </table>	版の構造	版厚	間隔	鉄網及び縁部補強鉄筋を省略	25cm 未満	5m	25cm 以上	6m	鉄網及び縁部補強鉄筋を使用	25cm 未満	8m	25cm 以上	10m	<p>変更なし</p>	
版の構造	版厚	間隔													
鉄網及び縁部補強鉄筋を省略	25cm 未満	5m													
	25cm 以上	6m													
鉄網及び縁部補強鉄筋を使用	25cm 未満	8m													
	25cm 以上	10m													

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由															
<p>第 10 編道路編 10-5-6-2 プレベーム桁製作工（現場）第 1 項</p> <p style="text-align: center;">表 10-5-1</p> <table border="1" data-bbox="261 415 1285 554"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>測定点</th> <th>測定方法</th> <th>単位</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>荷重計の示度</td> <td></td> <td>マノメーターの読み</td> <td>t</td> <td>± 5 %</td> </tr> <tr> <td>鋼桁のたわみ量</td> <td>支間中央</td> <td>レベル及びスケール</td> <td>mm</td> <td>- 1 ~ + 3 mm</td> </tr> </tbody> </table>	項目	測定点	測定方法	単位	規格値	荷重計の示度		マノメーターの読み	t	± 5 %	鋼桁のたわみ量	支間中央	レベル及びスケール	mm	- 1 ~ + 3 mm	<p>変更なし</p>	
項目	測定点	測定方法	単位	規格値													
荷重計の示度		マノメーターの読み	t	± 5 %													
鋼桁のたわみ量	支間中央	レベル及びスケール	mm	- 1 ~ + 3 mm													

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由												
<p>第 10 編道路編 10-14-4-7 路上再生工 第 1 項</p> <p style="text-align: center;">表 10-14-1 一軸圧縮試験基準値（養生日数 7 日）</p> <table border="1" data-bbox="290 367 1255 634"> <thead> <tr> <th>特性値</th> <th>路上再生セメント 安定処理材料</th> <th>路上セメント・アスファルト 乳剤安定処理材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一軸圧縮強さ MPa</td> <td>2.5</td> <td>1.5-2.9</td> </tr> <tr> <td>一次変位量 1/100cm</td> <td>—</td> <td>5-30</td> </tr> <tr> <td>残留強度率 %</td> <td>—</td> <td>65 以上</td> </tr> </tbody> </table>	特性値	路上再生セメント 安定処理材料	路上セメント・アスファルト 乳剤安定処理材料	一軸圧縮強さ MPa	2.5	1.5-2.9	一次変位量 1/100cm	—	5-30	残留強度率 %	—	65 以上	<p>変更なし</p>	
特性値	路上再生セメント 安定処理材料	路上セメント・アスファルト 乳剤安定処理材料												
一軸圧縮強さ MPa	2.5	1.5-2.9												
一次変位量 1/100cm	—	5-30												
残留強度率 %	—	65 以上												

現行（平成 25 年度）表					新（平成 27 年度）表	理 由
第 10 編道路編 10-14-17-3 橋梁塗装工 第 1 項						
表 10-14-2 素地調整程度と作業内容						
素地調整程度	さび面積	塗膜異常面積	作業内容	作業方法		
1 種	—	—	さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。	ブラスト法		
2 種	30%以上	—	旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜が B、b 塗装系の場合はジンクプライマーやジンクリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。	ディスクサンダー、ワイヤホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法		
3 種A	15～30%	30%以上	活膜は残すが、それ以外の不良部（さび、割れ、ふくれ）は除去する。	同上	変更なし	
3 種B	5～15%	15～30%	同上	同上		
3 種C	5%以下	5～15%	同上	同上		
4 種	—	5%以下	粉化物、汚れなどを除去する。	同上		

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由						
<p>第 10 編道路編 10-15-3-1 一般事項 第 4 項</p> <p style="text-align: center;">表 10-15-1 作業区分</p> <table border="1" data-bbox="409 373 1136 548"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作業時間帯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昼間作業</td> <td>7 時 00 分～19 時 00 分</td> </tr> <tr> <td>夜間作業</td> <td>19 時 00 分～7 時 00 分</td> </tr> </tbody> </table>	作業区分	作業時間帯	昼間作業	7 時 00 分～19 時 00 分	夜間作業	19 時 00 分～7 時 00 分	<p>変更なし</p>	
作業区分	作業時間帯							
昼間作業	7 時 00 分～19 時 00 分							
夜間作業	19 時 00 分～7 時 00 分							

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																							
<p>第 10 編道路編 10-16-5-2 材料 第 1 項</p> <p style="text-align: center;">表 10-16-1 セメント混合用アスファルト乳剤の規格 （（社）日本道路協会規格）</p> <table border="1" data-bbox="281 415 1258 758"> <thead> <tr> <th>種類及び記号</th> <th colspan="2">ノニオン乳剤・MN-1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エングラード（25℃）</td> <td colspan="2">2～30</td> </tr> <tr> <td>ふるい残留分（1.18mm）%</td> <td colspan="2">0.3 以下</td> </tr> <tr> <td>セメント混合性%</td> <td colspan="2">1.0 以下</td> </tr> <tr> <td>蒸発残留分%</td> <td colspan="2">57 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">蒸発残留物</td> <td>針入度（25℃）</td> <td>60 を越え 300 以下</td> </tr> <tr> <td>トルエン可溶分%</td> <td>97 以上</td> </tr> <tr> <td>貯留安定度（24 時間）%</td> <td colspan="2">1 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注]試験方法は舗装調査・試験法便覧 1-3 アスファルト乳剤の試験によるものとする。</p>	種類及び記号	ノニオン乳剤・MN-1		エングラード（25℃）	2～30		ふるい残留分（1.18mm）%	0.3 以下		セメント混合性%	1.0 以下		蒸発残留分%	57 以上		蒸発残留物	針入度（25℃）	60 を越え 300 以下	トルエン可溶分%	97 以上	貯留安定度（24 時間）%	1 以下		<p>変更なし</p>	
種類及び記号	ノニオン乳剤・MN-1																								
エングラード（25℃）	2～30																								
ふるい残留分（1.18mm）%	0.3 以下																								
セメント混合性%	1.0 以下																								
蒸発残留分%	57 以上																								
蒸発残留物	針入度（25℃）	60 を越え 300 以下																							
	トルエン可溶分%	97 以上																							
貯留安定度（24 時間）%	1 以下																								

現行（平成 25 年度）表	新（平成 27 年度）表	理 由																
<p>第 10 編道路編 10-16-24-4 R C 橋脚鋼板巻立て工 第 29 項</p> <p style="text-align: center;">表 10-16-2 現場溶接部の試験・検査基準</p> <table border="1" data-bbox="261 369 1282 936"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>試験方法</th> <th>規格値（評価基準）</th> <th>検査基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外観検査</td> <td></td> <td>ビード部分に“われ”がないこと、およびその幅、高さに大きな変化がないこと</td> <td>検査は全溶接箇所を対象とする。</td> </tr> <tr> <td>超音波探傷試験</td> <td>JIS Z 3060</td> <td>JIS Z 3060 に規定する M 検出レベル 3 類以上</td> <td>重要部位は当該溶接延長の 10% 以上、一般部位は同じく 5 % 以上の抜取りによる検査を行う。 1 箇所当たりの検査長は 30cm 以上とする。</td> </tr> <tr> <td>浸透探傷試験</td> <td>JIS Z 2343 -1, 2, 3, 4</td> <td>ビード部分に“われ”がないこと</td> <td>外観検査の結果、ビード部分に“われ”の疑いがある箇所を対象とする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注 1] 重要部位は、円形柱下端の鉛直継手部（フーチング上面から上に直径 D の範囲）および矩形柱下端の円形鋼板の継手部を指し、その他を一般部位とする。</p> <p>[注 2] 超音波探傷試験の検査箇所は、監督職員の指示による。</p>	試験項目	試験方法	規格値（評価基準）	検査基準	外観検査		ビード部分に“われ”がないこと、およびその幅、高さに大きな変化がないこと	検査は全溶接箇所を対象とする。	超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060 に規定する M 検出レベル 3 類以上	重要部位は当該溶接延長の 10% 以上、一般部位は同じく 5 % 以上の抜取りによる検査を行う。 1 箇所当たりの検査長は 30cm 以上とする。	浸透探傷試験	JIS Z 2343 -1, 2, 3, 4	ビード部分に“われ”がないこと	外観検査の結果、ビード部分に“われ”の疑いがある箇所を対象とする。	<p>変更なし</p>	
試験項目	試験方法	規格値（評価基準）	検査基準															
外観検査		ビード部分に“われ”がないこと、およびその幅、高さに大きな変化がないこと	検査は全溶接箇所を対象とする。															
超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060 に規定する M 検出レベル 3 類以上	重要部位は当該溶接延長の 10% 以上、一般部位は同じく 5 % 以上の抜取りによる検査を行う。 1 箇所当たりの検査長は 30cm 以上とする。															
浸透探傷試験	JIS Z 2343 -1, 2, 3, 4	ビード部分に“われ”がないこと	外観検査の結果、ビード部分に“われ”の疑いがある箇所を対象とする。															